

平成19年度（第51回）
岩手県教育研究発表会発表資料

家庭 / 技術・家庭

**技術・家庭科家庭分野における基礎的な知識と技術
を習得させる学習指導に関する研究**
- 消費生活学習の手引の作成とその活用をとおして -

研究協力校
花巻市立東和中学校

平成20年1月9日
岩手県立総合教育センター
科学産業教育室
高橋 恵 美

目次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
1 研究内容与方法	1
2 研究協力校	2
研究結果の分析と考察	2
1 技術・家庭科家庭分野における基礎的な知識と技術を習得させる学習指導についての基本構想	2
(1) 技術・家庭科消費生活における基礎的な知識と技術の習得についての基本的な考え方	2
(2) 消費生活における基礎的な知識と技術を習得させる学習指導	4
(3) 消費生活学習の手引	6
(4) 技術・家庭科家庭分野における基礎的な知識と技術を習得させるための学習指導についての基本構想図	10
2 消費生活学習の手引の活用を位置付けた手だての試案と検証計画	11
(1) 消費生活学習の手引の活用を位置付けた手だての試案	11
(2) 検証計画	11
3 消費生活学習の手引を活用した授業実践と実践結果の分析と考察	12
(1) 授業実践の概要	12
(2) 実践結果の分析と考察	15
4 基礎的な知識と技術を習得させる学習指導についてのまとめ	20
研究のまとめ	21
1 研究の成果	21
2 今後の課題	21
おわりに	21
【引用文献】	21
【参考文献】	21

研究目的

中学校技術・家庭科家庭分野では、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成を目指して、生徒が生活を自立して営めるようにすることをねらいとしている。今日の消費生活においては、販売方法や支払い方法が多様化しており、環境に配慮しながら生活に必要な物資・サービスの適切な選択や購入を決定できる資質や態度を培うことが重要である。そのためには、消費生活にかかわる基礎的な知識と技術を習得させることが必要となってくる。

しかし、生徒は商品の選択において、機能や品質よりも流行や見た目のよさを優先させ、生活の中の情報を活用せずに購入する傾向にあり、選択や購入にかかわる知識と技術が十分身に付いているとは言えない。一方、次々と物を買って替えたり、廃棄したりする生徒の様子などから、消費が及ぼす環境への配慮が、生活の中で十分意識される状況まで至っていないことがうかがえる。その原因として、指導者が基礎的な知識と技術に関する内容を十分把握しないまま、消費者トラブルの対処的な指導内容に重きをおく傾向にあることや、授業において生徒が自分の意思を決定する場面を取り入れた学習活動と、基礎的な知識と技術を習得させるための実践的・体験的な学習活動が十分でなかったためと考えられる。

このような状況を改善するためには、生徒が情報を活用して商品を選択・購入できる意思決定の場面を設定した消費生活学習の手引を作成し、授業で活用することが必要である。そして、それを活用し実践的・体験的な学習活動を多く取り入れた授業を構築することによって、教師にとっても、生徒にとっても、消費生活の基礎的な知識と技術がより一層意識され、それらの習得が図られるものと考えられる。

そこで、本研究は、家庭分野における消費生活の学習において、基礎的な知識と技術を明確にし、商品を選択・購入できる意思決定の場面を盛り込んだ消費生活学習の手引を作成し活用することによって、基礎的な知識と技術を習得させる学習指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

技術・家庭科の消費生活の学習において、生徒が商品を選択・購入できる意思決定の場面を設定した消費生活学習の手引を作成し、それを活用して実践的・体験的な学習活動を多く取り入れた学習を展開すれば、消費生活における基礎的な知識と技術を習得させることができるであろう。

研究の年次計画

この研究は、平成18年度から平成19年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成18年度）

基礎的な知識と技術を習得させる学習指導の基本構想の立案、先行研究等の資料収集、消費生活学習の手引の活用を位置付けた手だての試案の作成

第2年次（平成19年度）

消費生活学習の手引の作成、授業実践計画及び検証計画の立案、授業実践とその分析・考察、研究のまとめ

本年度の研究内容与方法

1 研究内容与方法

(1) 消費生活学習の手引の作成（教材開発法）

- (2) 消費生活学習の手引を活用した授業実践計画及び検証計画の立案
- (3) 消費生活学習の手引を活用した授業実践とその分析・考察(授業実践,テスト法,質問紙法)
- (4) 基礎的な知識と技術を習得させる学習指導についてのまとめ

2 研究協力校

花巻市立東和中学校

研究結果の分析と考察

1 技術・家庭科家庭分野における基礎的な知識と技術を習得させる学習指導についての基本構想

ここでは、技術・家庭科家庭分野における基礎的な知識と技術を習得させる学習指導の基本構想について、基本的な考え方、学習指導、消費生活学習の手引、基本構想図の4点から述べる。基本的な考え方では、家庭分野における基礎的な知識と技術について明らかにする。学習指導では、意思決定を取り入れた学習過程と実践的・体験的な学習活動が重要であることを述べる。消費生活学習の手引には、これらの内容を盛り込み、消費生活における基礎的な知識と技術を生徒に習得させる基本構想を示す。

(1) 技術・家庭科消費生活における基礎的な知識と技術の習得についての基本的な考え方

家庭分野における基礎的な知識と技術の定義と、消費生活における基礎的な知識と技術の内容とそれらを習得する意義について、先行文献等から明らかにした。

ア 技術・家庭科家庭分野における基礎的な知識と技術

先行文献から、技術・家庭科における基礎的な知識と技術とは、生徒の既習事項や生活経験を基盤とし、自らが生活を営むという自立とのかかわりから、自立した生活を営む上で必要な知識と技術であると定義した。以下にその根拠を示す。

技術・家庭科における基礎的な知識と技術については、中学校学習指導要領(平成10年12月)解説・技術・家庭編-(以下学習指導要領の解説)において、「生活に必要な基礎的な知識と技術とは、生徒が主体的に生活を営むために必要とされる基礎的な知識と技術であり、各分野の指導内容である」と記されている。

先行文献によると、武藤(2000)は、「家庭生活の知識は衣・食・住などの生活資材に対する知識だけでなく、家庭生活認識(行動できる認識)へと発展していくものであり、生活技術としての範囲は、物を作るにかかわる技術ではなく、生活を営む技術と言える」と、家庭生活とのかかわりから説いている。さらに、八重樫(2005)は、「技術・家庭科における基礎的な知識と技術とは、小学校家庭科での既習内容や日常生活での経験や体験を土台とし、自己の生活の自立を支えるために必要不可欠な認識と動作ととらえる」と、生活に必要な不可欠な認識と動作ととらえている。

以上のことから、技術・家庭科における基礎的な知識と技術とは、自らが生活を営むという自立とのかかわりから、自立した生活を営む上で必要な知識と技術であると定義する。さらに、知識と技術について具体的に示すと、「知識」は、「家庭生活を主体的に営むために知っておくべきこと、分かっておくべきこと」、「技術」は、「家庭生活を主体的に営むために自分でできなければならないこと」とであると解釈できる。

イ 技術・家庭科消費生活における基礎的な知識と技術の内容について

消費生活における基礎的な知識と技術の具体的な内容を、次頁【表2】のように、明らか

にした。学習内容の4項目（販売方法，消費者保護，物資・サービスの選択等，環境に配慮した消費生活）について，知識と技術の具体的な内容を示した。以下にその根拠を示す。

消費生活の学習の目標を，小学校・中学校・高等学校の学習指導要領の解説から比較した。小学校では，「消費者として必要な基礎的・基本的な態度の育成」が，中学校では，「自分や家族の生活や消費者の在り方考える消費者としての自覚の育成」が望まれている。さらに，高等学校においては，「より具体的な自立した消費者の姿や実践的な態度の育成」が求められている。このように，消費生活の学習は，消費者としての基本的な態度，自覚，実践的な態度の育成をめざし，児童・生徒の自立や家族とのかかわりに応じて，基礎的な知識と技術が習得される必要があると言える。

一方，消費生活における基礎的な知識と技術の具体的な内容を，学習指導要領の解説と，国立教育政策研究所教育課程センター（以下国研とする）の評価規準から整理した。

家庭分野内容Bの学習項目(4)「家庭生活と消費（消費生活の学習項目名）」の示す内容は，学習指導要領の解説から判断すると，「販売方法」，「消費者保護」，「物資・サービスの適切な選択，購入及び活用」，「環境に配慮した生活」の4項目であるととらえることができる。さらに，本研究の主題である「基礎的な知識と技術の習得」の示す内容及び対象となる範囲について，国研の評価規準から，【表1】のように，

【表1】「家庭生活と消費」の評価規準（国研より）

	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
評価規準	物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができる。	家庭生活と消費に関する基礎的な知識を身に付けている。
評価規準の具体例	・具体的な物資・サービスの事例について情報を収集・整理し適切な選択、購入及び活用ができる。	・中学生にかかわりの深い販売方法の利点と問題点について理解している。 ・消費者の基本的な権利と消費者保護基本法の趣旨を理解している。 ・物資の選択・購入・活用・廃棄に関する基礎的な知識を身に付けている。

「生活の技能」と「生活や技術についての知識・理解」の2観点について記した。生徒に身に付けさせる「生活の技能」の内容は，「物資・サービスの適切な選択，購入及び活用ができる」であり，「生活や技術についての知識・理解」の内容については，「家庭生活と消費に関する基礎的な知識を身に付けている」ことである。評価規準の具体例から内容を精査し，前出の学習指導要領の解説，教科書の学習内容から検討を加え，【表2】のように，「消費生活における基礎的な知識と技術の具体的な内容」を明らかにした。知識と技術の内容を分けて表したが，消費生活における基礎的な技術は，知識の習得とともに獲得されていくと考えられる。例えば，物資・サービスを選択できるという技術は，商品購入の条件や情報収集の方法を理解した上での技術にならなければならない。よって「基礎的な技術の具体的な内容」には，さまざまな知識に関する技術も含まれるととらえた。技術の内容に関しては，4項目に関連するものもあると考え重複して，表記した。

【表2】消費生活における基礎的な知識と技術の具体的な内容

学習内容の4項目	販売方法	消費者保護	物資・サービスの選択，購入及び活用	環境に配慮した消費生活
知識の具体的な内容	・販売方法 ・支払い方法 ・消費トラブル	・消費者の基本的な権利と責任 ・消費者保護 ・消費者を保護する法律 ・クーリング・オフ制度 ・消費生活センターなどの相談機関 ・消費トラブル	・物資とサービス ・選ぶときの条件 ・表示・マークの意味 ・契約 ・消費トラブル	・消費生活の環境への影響 ・使い捨て容器，リサイクル可能な容器，食品の包装，トレイなどと環境のかかわり ・死蔵している衣類の再利用やリサイクルの方法
技術の具体的な内容	・物資・サービスの選択，購入 ・消費トラブルの対処	・物資・サービスの選択，購入 ・消費トラブルの対処	・物資・サービスの選択，購入 ・情報の収集，整理，選択 ・消費トラブルの対処	・環境に配慮した選択，購入 ・ごみを少なくする暮らし方 ・購入した物の適切な活用，廃棄

ウ 消費生活における基礎的な知識と技術を習得させる意義

消費生活における基礎的な知識と技術を習得させる指導は、生徒が主体的に消費生活をかかわろうとする意欲をもたせ、学んだ知識と技術を生かして自立した消費生活を営むために必要である。これらを習得させる意義について、以下にその根拠を示す。

消費生活における基礎的な知識と技術を習得することは、消費生活を営む上で必要とされるさまざまな知識と、選択・購入及び活用の技術を確実に身に付け、自分の消費生活に生かす力を得ることである。その習得は、自立して主体的な消費生活を営むことにつながる。そして、習得された基礎的な知識と技術が土台となって、家庭分野の上位目標である、家庭生活をよりよく豊かに創造しようとする能力と態度の育成が図られていく。ゆえに、消費生活における基礎的な知識と技術を習得させることは意義があると言える。

授業で学んだ知識と技術を、家庭生活において、具体的に行動できる力に高めていくことも、消費生活の学習においては重要となる。習得した知識と技術が日常生活で生かされるためには、生徒が主体的に消費生活を営もうとする意識と、行動する必要性の認識の形成が必要になってくる。しかし、生徒は、日々の生活において、商品にかかわる情報を十分活用せずに物を購入したり、廃棄したりしており、授業で学んだ知識や技術が、実践の場で生かされにくい状況にある。これは、生徒の生活に生かそうとする意識の高まりが十分でなかったこと、学習指導がその場限りになってしまい、学んだ知識と技術を生かす指導の手だてが十分でなかったことが要因としてあげられる。

このような状況を改善するためには、生徒が実際の生活場面を想起し、学んだ知識と技術を生かして、商品の選択・購入を意思決定できる学習過程を取り入れることが必要である。このような学習過程を重ねることによって、消費生活における基礎的な知識と技術の確かな定着が図られ、自ら進んで消費生活を営もうとする意識も高まっていくと考えられる。

(2) 消費生活における基礎的な知識と技術を習得させる学習指導

消費生活における基礎的な知識と技術を習得させる学習指導について、意思決定を取り入れた学習過程と、実践的・体験的な学習活動の2点から検討する。

ア 意思決定を取り入れた学習過程

消費生活の学習において、生徒が学んだ知識と技術を生かして、意思決定を行うことにより、基礎的な知識と技術の習得を図るねらいで、意思決定を取り入れた5段階の学習過程を構想した。以下に、決定した学習過程に至った経緯を述べる。

消費生活においては、自分で情報を収集し、習得した知識や技術から、自分の意思を決定し、選択できる力の育成が望まれている。今井(1988)は、「消費者教育の本質は意思決定能力である」と言う。一方、工藤・内野(1997)は、「意思決定力の育成や価値観の形成を目指すとき、学習の主体者である児童・生徒が意思決定する場や、多様な価値から自分なりの価値を選択する過程を経験させることが重要であろう」と述べている。このことから、消費生活の学習において、意思決定の場面を設定した学習の必要性や、意思決定の力を高めることの重要性が理解できる。本研究における意思決定は、いくつかの選択肢にそって、情報を収集・整理し、最終的に、何が自分にとって必要なのかを考え、多くのものからよいものを選ぶことができる能力のことととらえた。意思決定の場面を取り入れた学習過程は、先行文献によって研究されている。【表3】に、意思決定を取り入れた学習過程の例について示す。

【表3】意思決定を取り入れた学習過程の例

出典 段階	家庭科教育における消費者教育指導の実際(藤枝・内藤, 1979)	家政学と家庭経営学と消費者教育(今井, 1987)	消費者教育を導入した家庭科の授業(武藤・鶴田, 1992)	家庭科の21世紀プラン(工藤・内野, 1997)	賢い消費者(アメリカの消費者教育の教科書)(1998)
1	調査・分析過程	問題の自覚	現状把握, 問題把握	調査・分析	目標を定め, 問題を明確にする
2	価値判断過程	解決策のアイデア	価値判断のための基礎知識の習得	価値判断	情報を集める
3	意思決定過程	価値付け	意思決定1(自己の生活管理)	意思決定	選択肢を考える
4	行動過程	比較考量	意思決定2(社会参加, 課題の発展)	行動	結論を検討する
5	行動アセスメント過程	決定		行動アセスメント	意思決定し, 行動する
6		責任			意思決定を評価する

これらの学習過程を総合的に見ると, 問題を自覚し, 問題の分析をする。自身の価値観に照らしたり, 新しい知識と技術を獲得したりして, 価値の判断をする。複数の考えの中から主体的に意思決定を行う。意思決定したことを実践する。再検討や評価をしながら生活に生かすアセスメントを行うことが分かった。この学習では, 教師が, 生徒に特定の価値や判断, 選択を押しつけるのではなく, 個人的あるいは社会的価値には様々な考え方・判断のあることを学ばせ, 常に自覚ある行動を決めるための知識や技術の習得を図っていくことが必要である。例えば, 学習以前において, 生徒が価格や好みで, あるいは理由なく選択・購入していたものが, 学習後に, 情報を収集することの大切さに気付いたり, 選択する視野が広がったりして, 自らの意思で選択・購入する行動に表れるという学習効果が期待できる。

このことから, 本研究における意思決定を取り入れた学習過程を次のように構想した。

意思決定を取り入れた学習過程	見つめる (問題の分析)	追究する (価値の判断)	考えをまとめる (意思決定)	実践する (行動)	生活に生かす (アセスメント)
----------------	-----------------	-----------------	-------------------	--------------	--------------------

このような, 意思決定の場面を学習展開に位置付け, 繰り返して意思決定を行うことで, 消費生活における基礎的な知識と技術の習得も図られ, 主体的に消費生活を営もうとする意識も高まると考えられる。

イ 消費生活における実践的・体験的な学習活動

消費生活における実践的・体験的な学習活動は, 意思決定を取り入れた学習過程に指導の手だてとして各段階で生かすと効果的である。実践的・体験的な学習活動をとおして習得した知識や技術は, 確かな力となって実生活においても生かされやすいと言える。以下にその根拠を示す。

武藤(1992)は, 「自分の価値観に基づき主体的に行動を決定するような, 生徒たち自身の主体性を生かした指導方法が追究される必要がある」と記している。一方, 高橋(2006)も, 「消費者教育では, アクティビティ(活動)やロールプレイング, ゲームなど学習方法を工夫する授業展開を行うこと」と述べており, 消費生活の学習において実践

【表4】消費生活の学習方法

分類	学習方法
学習行動的	グループ活動, ゲーム, 実験・実習, シミュレーション, ディスカッション, ディベート, プロジェクト学習, 問題解決学習, ロールプレイング
事例活用的	新聞, パンフレット, 雑誌, パソコン, 視聴覚メディア, 消費者関連機関の活用
調査活用的	アンケート, ケーススタディ, 試買テスト, 調査活動, レポート作成・発表
教室外活動	インタビュー, 外部講師の活用, 教室外活動, 見学, 地域活動への参加
指示的	掲示・展示, 実物提示法

的・体験的な学習活動を取り上げることは効果があると考えられる。前頁の【表4】に、消費者教育支援センターが、1995年に発行した「消費者教育授業実践60」に示された、27の学習方法をまとめた。このように、消費生活における実践的・体験的な学習活動の種類は多い。しかし、教師は、このような学習活動が有効であると理解できても、教材研究や用具など事前の準備に手間がかかることや、生徒を主体的に活動させる困難さを抱えているなどの指導の実態がある。

【表5】本研究における実践的・体験的な学習活動と特徴

学習活動		特徴
擬似体験	ロールプレイング	役割演技をすることでその状況の心理状態を体験できる。
	シミュレーション	現実の状況を再現して体験できる。
討議	KJ法	意見をまとめていく収束的な問題解決である。
	ブレインストーミング	発散思考による問題解決で出された意見は一切批判しない。
	ディスカッション	ある問題について議論し目標を具現化する方法である。
観察	商品観察	実物を直接見たり、ふれたりし問題解決に迫る方法である。
	調査	事実を調査する一次的な情報収集の手段である。

そこで、本研究においては、「生徒の主体的な活動が展開できること」、「生徒の消費生活の実態に合った教材を利用できること」を主眼に置き、「擬似体験」、「討議」、「観察」の学習活動を取り入れ、授業展開したいと考えた。【表5】に、本研究で、取り入れたい実践的・体験的な学習活動と、その特徴を示す。

(3) 消費生活学習の手引

消費生活学習の手引は、その学習における基礎的な知識と技術を習得させるための根幹を成す。

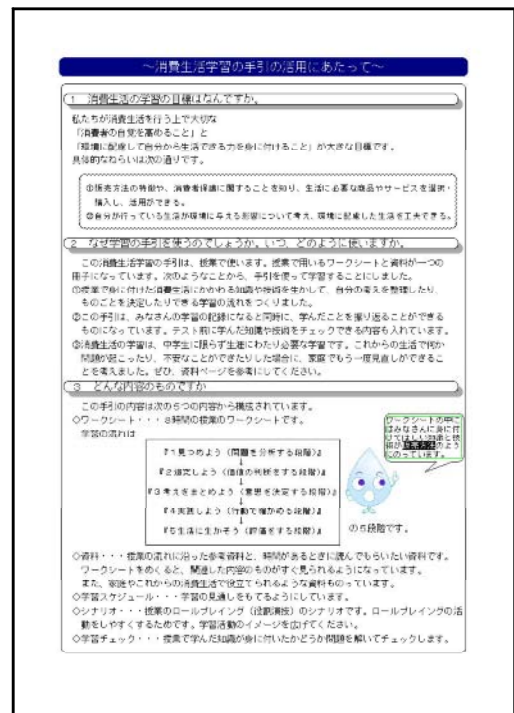
【資料1】に、抜粋したものを示す。この手引には、前述した意思決定を取り入れた学習過程、実践的・体験的な学習活動など、指導の上重要な点がすべて盛り込まれる。ここでは、消費生活学習の手引を作成し活用する意義と、手引の作成に当たっての留意点と手引の構成、手引の作成手順、学習題材の決定と指導計画、手引の実際の5点について述べる。

ア 消費生活学習の手引を作成し活用する意義

消費生活学習の手引を作成し、授業で活用する意義は、生徒が基礎的な知識や技術を確認しながら、自分で考え選択するという意思決定が、繰り返しできることである。手引には、習得すべき基礎的な知識と技術が明記されていること、生徒が意思決定を行える学習過程を支援するワークシートが盛り込まれることが必要な要件となる。さらには、実践的・体験的な学習活動があまり取り入れられていないという状況を鑑み、これらの学習活動の方法や留意事項を手引に盛り込むことで、生徒の基礎的な知識と技術の習得をより確かなものにすることができると考えられる。

イ 消費生活学習の手引の作成に当たっての留意点と手引の構成

消費生活学習の手引の作成に当たっての留意点は、次の4点である。一つめは、意思決定を取り入れた学習過程をわかりやすく示してあること。二つめは、基礎的な知識と技術が習得できること。



【資料1】消費生活学習の手引から抜粋

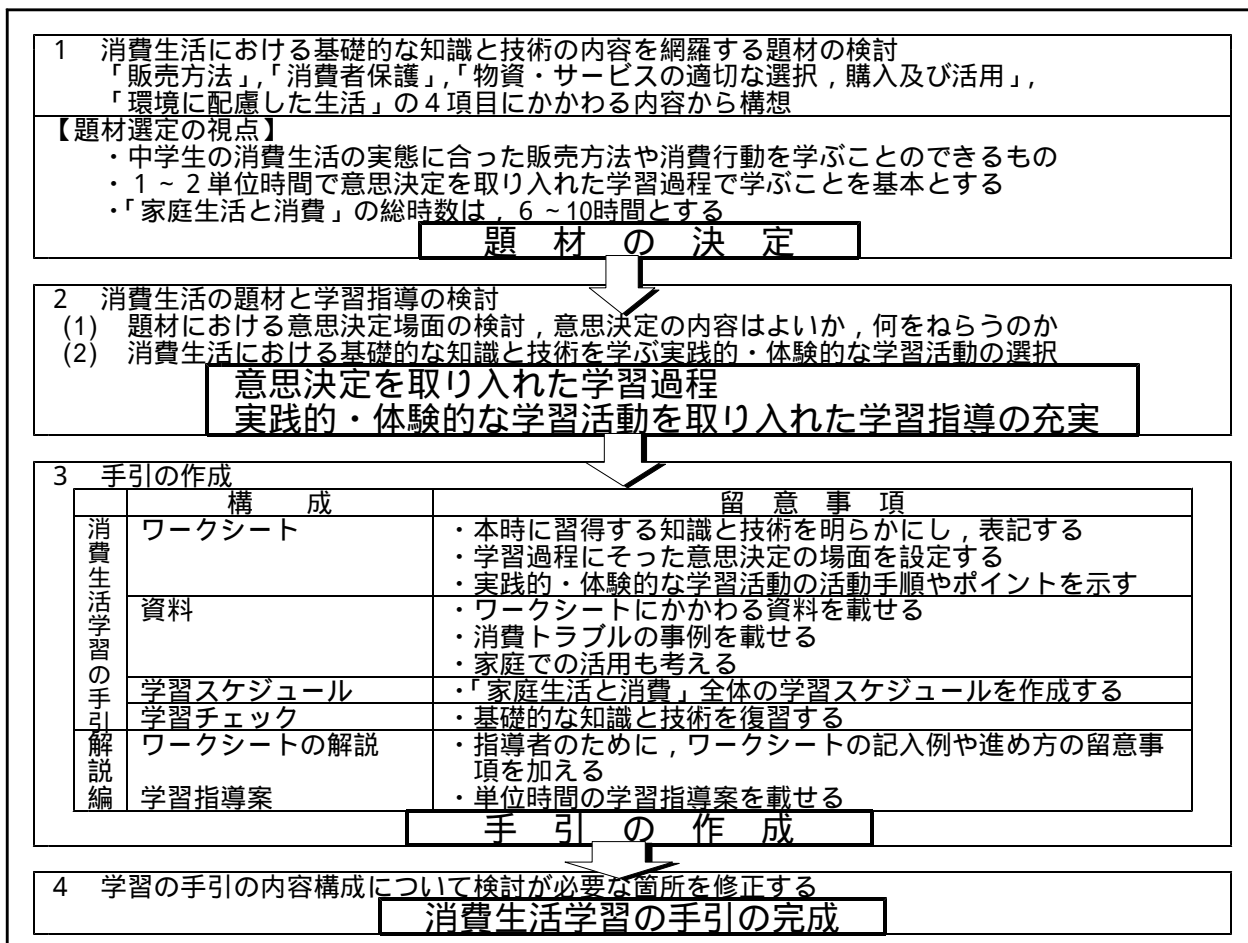
これには基礎的な知識と技術を明確にすることと、理解を支援することが含まれる。三つめは、消費生活を効果的に学ぶ実践的・体験的な学習活動の指針となること。四つめは学習活動の見通しがもてることである。この留意点を踏まえ、手引の構成を考えた。それは、意思決定の学習過程で学ぶワークシート、授業の内容を補充する資料や復習のための学習チェック、ロールプレイングの学習活動の際に用いるシナリオから成る。さらに、教師の指導を支援することを目的にして、ワークシートの解説、学習指導案で構成する解説編の作成も行った。【表6】に、消費生活学習の手引作成の留意点と構成とのかかわりを示す。

【表6】消費生活学習の手引作成の留意点と構成とのかかわり

	消費生活学習の手引作成の留意点	手引の構成
手引	・意思決定できる学習過程をわかりやすく示す	ワークシート
	・消費生活学習における基礎的な知識と技術を明確にする	資料
	・消費生活学習における基礎的な知識と技術の理解を支援する	学習チェック
	・実践的・体験的な学習活動をする際の活動の指針となる	シナリオなど
	・題材全体と単位時間の学習活動の見通しがもてる	学習スケジュール
解説編	・教師の指導を支援する	ワークシートの解説
		学習指導案

ウ 消費生活学習の手引の作成手順

消費生活学習の手引を作成するに当たっての作業手順は、【図1】に示すとおりである。題材選定の視点にそって学習題材を決定し、意思決定を取り入れた学習過程と実践的・体験的な学習活動の内容を検討した。さらに、【表6】の作成の留意点を受け具体的な留意事項を明らかにし、消費生活学習の手引の作成手順を示した。



【図1】消費生活学習の手引の作成手順

エ 学習題材の決定と指導計画

授業実践にかかわる学習題材を決定した。学習題材の決定は、中学生の消費生活の実態に合った内容について考慮し、擬似体験や討議、観察の実践的・体験的な学習活動を構想しながら行った。学習題材には、消費生活における基礎的な知識と技術の具体的な内容が網羅されていることを、3頁【表2】に基づき、関連表【表7】を作成して確認した。

さらに、学習題材ごとに、具体的な学習過程と、学習活動を構想し決定した指導計画が【表8】である。毎時間ごとに意思決定の場面を取り入れ、基礎的な知識と技術を生かし、主体的な消費生活を営もうとする意識の向上をねらった。

【表7】学習題材と消費生活における基礎的な知識と技術の関連表

学習題材		1 お金について考えてみよう	2 商品を選ぼう	3 商品を選ぼう	4 販売方法を選択しよう	5 消費トラブルの対処方法	6 自分の生活の環境への影響を考えよう	7 地球に優しい暮らしを考えよう(2時間)
基礎的な知識と技術								
販売方法	販売方法	店舗販売 無店舗販売 通信販売 訪問販売						
	支払い方法	即時払い 前払い 後払い						
	消費トラブル	中学生の消費トラブルの現状 悪質商法						
	消費者保護	消費者の権利と責任 消費者基本法 クーリング・オフ制度 相談機関						
物資・購入及びサービスの選択・購入	選択・購入	物資とサービス 選ぶときの条件 表示・マークの意味 物資・サービスの選択・購入						
	情報	情報の収集・整理・選択						
	契約・解約	契約 消費トラブルの対処						
	活用	購入した物の活用 消費生活の環境への影響 使い捨て容器とリサイクル可能な容器 リサイクルと再利用 3R						
環境に配慮した選択・購入	環境と暮らし	環境に配慮した選択・購入 購入した物の適切な活用と廃棄 ごみを少なくする暮らし方						

【表8】学習題材ごとの学習過程及び指導計画

学習題材(時数)	学習題材1 お金について考えてみよう(1時間)	学習題材2 商品を選ぼう(1時間)	学習題材3 商品を選ぼう(1時間)	学習題材4 販売方法を選択しよう(1時間)	学習題材5 消費トラブルの対処方法を考えよう(1時間)	学習題材6 自分の生活の環境への影響を考えよう(1時間)	学習題材7 地球に優しい暮らしを考えよう(2時間)	
本時の学習課題	あなたはほしいものがあったらどうしますか	商品を選ぶ条件は何ですか	あなたならどのジーンズを選びますか	あなたはどの販売方法を利用しますか	消費トラブルにあったときあなたならどう対処しますか	3Rの推進のためにあなたができることは何ですか	あなたは地球に優しい暮らしはどうあるべきだと考えますか	
学習のねらい (内は、評価の観点を表す。)	・自分の消費生活に関心を持ち、お金の大切さを理解する。(関) ・契約と約束の違いを理解する。(知)	・商品を選ぶ条件を理解する。(知) ・商品を選択・購入する。(技)	・いろいろな観点から商品を選択する。(技) ・衣類のリサイクルに関心をもつ。(関)	・商品や場面に応じて販売方法や支払い方法を選択する。(技) ・通信販売を利用するときの注意点を理解する。(知)	・悪質商法などのトラブルの例を知り、対処の方法を理解する。(知)	・自分の生活を振り返り、環境に与える影響に配慮した行動を工夫する。(工) ・ごみの分別をすることができる。(技)	・自分の意見をもって活動に意欲的に参加する。(関) ・環境に配慮した行動ができる。(技)	
意思決定を取り入れた学習過程	1「見つめる」 (問題の分析)	・課題把握	・課題把握	・課題把握 観察・実物提示	・課題把握 通信販売利用の実態把握	・課題把握 代表生徒と教師による寸劇の観察	・課題把握 学級の昼食の実態把握	
	2「追究する」 (価値の判断)	・中学校入学時にかかる費用の算出 ・家庭の収支の仕組み ・契約クイズ	・物資・サービス 商品観察 ・表示・マーク ・情報の収集・整理・選択	・販売価格 ・ファッション ・リサイクルと再利用 ・3R	・販売方法 ・支払い方法 ・通信販売の利用	・悪質商法 ・消費者の権利と責任 ・消費者保護の法律 ・クーリング・オフ制度 ・相談機関	・調査(買った食品の容器のかさと重さ調べ) ・花巻市のごみの現状 ・容器リサイクル法 ・使い捨て容器とリサイクル可能な容器	
	3「考えをまとめる」 (意思決定)	・『あなたはほしいものがあったらどうしますか』の意思決定	・『商品を選ぶ条件は何ですか』の意思決定	・『あなたならどのジーンズを選びますか』の意思決定	・『あなたはどの販売方法を利用しますか』の意思決定	・『消費トラブルにあったとき、あなたならどう対処しますか』の意思決定	・『3Rの推進のためにあなたができることは何ですか』の意思決定 ごみを少なくする暮らし方 リサイクルと再利用	・『あなたは地球に優しい暮らしはどうあるべきだと考えますか』の意思決定
	4「実践する」 (行動)	ロールプレイング1 (契約の疑似体験) ロールプレイング2 (家族とやりとり)	KJ法 (班ごとに選ぶ条件をまとめる)	ジーンズの活用方法を描く	意見交流しながらみんなの考えを知る	ロールプレイング (消費トラブルの例) 契約解除通知の記入	シミュレーション (ごみの分別)	ディスカッション (2年2組環境宣言の作成)
	5「生活に生かす」 (アセスメント)	・契約と約束の違いのまとめ ・契約するとき気をつけること	・商品を購入するとき気をつけること	・商品を購入するとき気をつけること	・通信販売を利用するとき気をつけること	・消費トラブルにあわないようにするために気をつけること	・今日から自分ができること	・場面設定により、自分の行動の振り返り

注) ・は学習項目、 は生徒の学習活動、 は本研究の指導の手だての実践的・体験的な学習活動、 () は実践的・体験的な学習活動の内容、ゴシックは基礎的な知識と技術である。

オ 消費生活学習の手引の実際

学習の手引の一部を抜粋して掲載する。この手引は、基礎的な知識と技術を習得させるための、意思決定を取り入れた学習過程と、実践的・体験的な学習活動を中心に構成されている点に注目してもらいたい。

【資料2】消費生活学習の手引のワークシートの一部 (P21~22)

意思決定を取り入れた学習過程

1 「見つめよう」
問題の分析

2 「追究しよう」
価値の判断

悪質商法

消費者保護

クーリングオフ

消費者保護の権利と責任を知ろう (P25)

消費者の権利

知るべき権利
安全を求める権利
情報が反映される権利
消費者救済を受ける権利
消費者の責任

消費者の5つの権利

① 知る権利
② 安全を求める権利
③ 情報が反映される権利
④ 消費者救済を受ける権利
⑤ 消費者の責任

① 悪質な () 消火器や住宅リフォームなど、訪問して悪徳契約させる。
② () 釣りで声をかけ、顧客店などに連れていかれた商品を買わせる。
③ () 電話や展覧会で商品が当たったと偽り出し、違う物を買わせる。
④ () 知人に商品を紹介して購入してもらったと偽り出し、はじめに大量の商品を購入させられる。

その他悪質トラブル、強り込み詐欺、架空請求、点検商法、悪徳 (SF) 商法、買収商法、ネガティブオプショ (送りつけ商法)、無料商法、内職商法、おとり広告、データ商法

① 消費者保護の権利と責任を知ろう (P25)
② 消費者の権利
③ 知るべき権利
④ 安全を求める権利
⑤ 情報が反映される権利
⑥ 消費者救済を受ける権利
⑦ 消費者の責任

① 悪質な () 消火器や住宅リフォームなど、訪問して悪徳契約させる。
② () 釣りで声をかけ、顧客店などに連れていかれた商品を買わせる。
③ () 電話や展覧会で商品が当たったと偽り出し、違う物を買わせる。
④ () 知人に商品を紹介して購入してもらったと偽り出し、はじめに大量の商品を購入させられる。

その他悪質トラブル、強り込み詐欺、架空請求、点検商法、悪徳 (SF) 商法、買収商法、ネガティブオプショ (送りつけ商法)、無料商法、内職商法、おとり広告、データ商法

① 消費者保護の権利と責任を知ろう (P25)
② 消費者の権利
③ 知るべき権利
④ 安全を求める権利
⑤ 情報が反映される権利
⑥ 消費者救済を受ける権利
⑦ 消費者の責任

① 悪質な () 消火器や住宅リフォームなど、訪問して悪徳契約させる。
② () 釣りで声をかけ、顧客店などに連れていかれた商品を買わせる。
③ () 電話や展覧会で商品が当たったと偽り出し、違う物を買わせる。
④ () 知人に商品を紹介して購入してもらったと偽り出し、はじめに大量の商品を購入させられる。

その他悪質トラブル、強り込み詐欺、架空請求、点検商法、悪徳 (SF) 商法、買収商法、ネガティブオプショ (送りつけ商法)、無料商法、内職商法、おとり広告、データ商法

基礎的な知識と技術

相談機関

3 「考えをまとめよう」
意思決定

4 「実践しよう」
行動

5 「生活に生かそう」
アセスメント

消費トラブルの対処

**実践的・体験的な学習活動
ロールプレイング
シナリオの活用**

5 「消費トラブルの対処方法を考えてよう」ワークシート

3 「考えをまとめよう」

4 「実践しよう」

5 「生活に生かそう」

① 消費トラブルの対処方法を考えてよう

② 考えをまとめよう

③ 実践しよう

④ 生活に生かそう

⑤ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

⑥ 考えをまとめよう

⑦ 実践しよう

⑧ 生活に生かそう

⑨ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

⑩ 考えをまとめよう

⑪ 実践しよう

⑫ 生活に生かそう

⑬ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

⑭ 考えをまとめよう

⑮ 実践しよう

⑯ 生活に生かそう

⑰ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

⑱ 考えをまとめよう

⑲ 実践しよう

⑳ 生活に生かそう

㉑ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

㉒ 考えをまとめよう

㉓ 実践しよう

㉔ 生活に生かそう

㉕ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

㉖ 考えをまとめよう

㉗ 実践しよう

㉘ 生活に生かそう

㉙ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

㉚ 考えをまとめよう

㉛ 実践しよう

㉜ 生活に生かそう

㉝ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

㉞ 考えをまとめよう

㉟ 実践しよう

㊱ 生活に生かそう

㊲ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

㊳ 考えをまとめよう

㊴ 実践しよう

㊵ 生活に生かそう

㊶ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

㊷ 考えをまとめよう

㊸ 実践しよう

㊹ 生活に生かそう

㊺ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

㊻ 考えをまとめよう

㊼ 実践しよう

㊽ 生活に生かそう

㊾ 消費トラブルの対処方法を考えてよう

㊿ 考えをまとめよう

㊿ 実践しよう

㊿ 生活に生かそう

【資料3】学習の手引のシナリオの一部 (P37)

シナリオ

シナリオその1 ワークシートP2~契約の場面~

【ファーストフード店でハンバーガーを買う場面 (売買契約)】

店員:「いらっしゃいませ、こちらでお返し上がりですか。」
客:「はい。」
店員:「何にさせていただきますか。」
客:「ハンバーガーをお願いします。」
店員:「お好みのサイズは、L、M、Sがござりますが、」
客:「Lをお願いします。」
店員:「お会計1000円になります。1000円お預かりします。1000円のお返しです。少々お待ち下さい。(O着でお返ししますので、しばらくお待ち下さい)ありがとうございますございました。」

【レンタルショップでDVDを借りる】(賃貸借契約)

店員:「いらっしゃいませ」
客:「借りたいDVDと会員証を出します。(会員証を出さない場合は店員に確認される)」
店員:「Pコード (バーコード) をする。」
客:「1週間レンタルでよろしいですか」
店員:「はい。」
店員:「1000円になります。1000円お預かりします。1000円のお返しです。」
客員:「(商品を渡しながら) 10月00日までにこの期お返しします。ありがとうございますございました。」

自分で設定を考えてみよう

①『 』で『 』を買おうとしたら・・・
②『 』で『 』を借りたら・・・
いろいろな場面が考えられます。

実践的・体験的な学習活動「ロールプレイング」ためのシナリオである。該当頁は、売買契約のロールプレイングの活動である。

【資料4】解説編、ワークシートの解説 (P5)

2 「発見をえるぼうし」ワークシート

1 「見つめよう」

2 「追究しよう」

ワークシートの解答、予想される回答、実践的・体験的な学習活動のポイントなどを赤字で記載し、教師の支援を行う内容とした。

1 「見つめよう」

① 商品名はどんなものがありますか。
・文具 ・雑誌 ・菓子 ・テレビ ・CD ・薬 ・食料品 ・衣類 ・携帯電話 (一機用) ・クリーニング ・美容院 ・歯科 ・郵便 ・宅配便 ・塗料 ・英検受験 (サービス) (※商品=物資とサービスとらえて)

② どの商品を買った方がいいのでしょうか。
・安いもの ・気に入ったもの ・品質のよいもの ・季節限定品
※教師のことばかけの例「ここでの考えが、P6の「3考えをまとめよう」では、どのように深まってくるか、読解して学習に活かしましょう。」

2 「追究しよう」

(1) 質問とは・・・お困りごとで書かれている形のある (商品) (P7)
サービスとは・・・企業や組織によって (提供) されている (物) (サービス) (商品=物資、サービスとらえて記述してある。商品とサービスというともある。)

(2) 商家の表示にはどんなことが書かれていますか。商品名を認べてみましょう。マークにも注目しましょう。(P7~9、11)

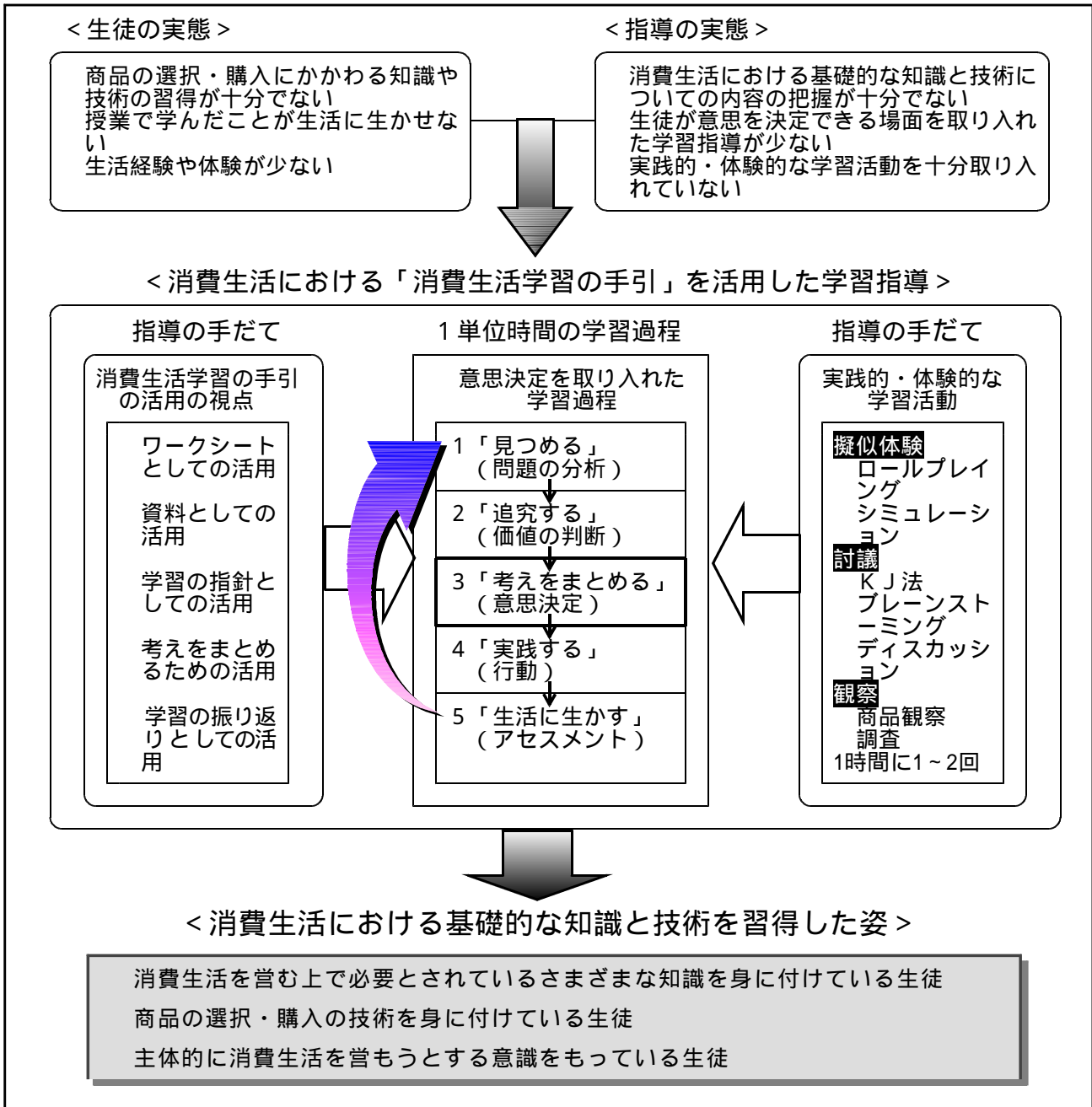
① チョコレート菓子
② パウダースプレー

③ わたしは、同から商品の情報を収集するつもりでいいのでしよう。おぼろげなものでしょう。(P10)
テレビや広告などの情報には、消費者に有利な情報は必ず強調されているものもある。よって、できるだけ多くの情報を収集して、比較検討し、決定していくことが必要だから。

(4) 技術・家庭科家庭分野における基礎的な知識と技術を習得させるための学習指導についての基本構想図

基本構想を基に、技術・家庭科家庭分野における基礎的な知識と技術を習得させる学習指導についての基本構想図を【図2】に示す。

生徒の実態及び教師の指導の実態から、実践的・体験的な学習活動と、手引の活用を手だてとし、意思決定を取り入れた学習過程を構想した。これらの学習活動によって、消費生活における基礎的な知識と技術を習得した生徒の姿が期待される。



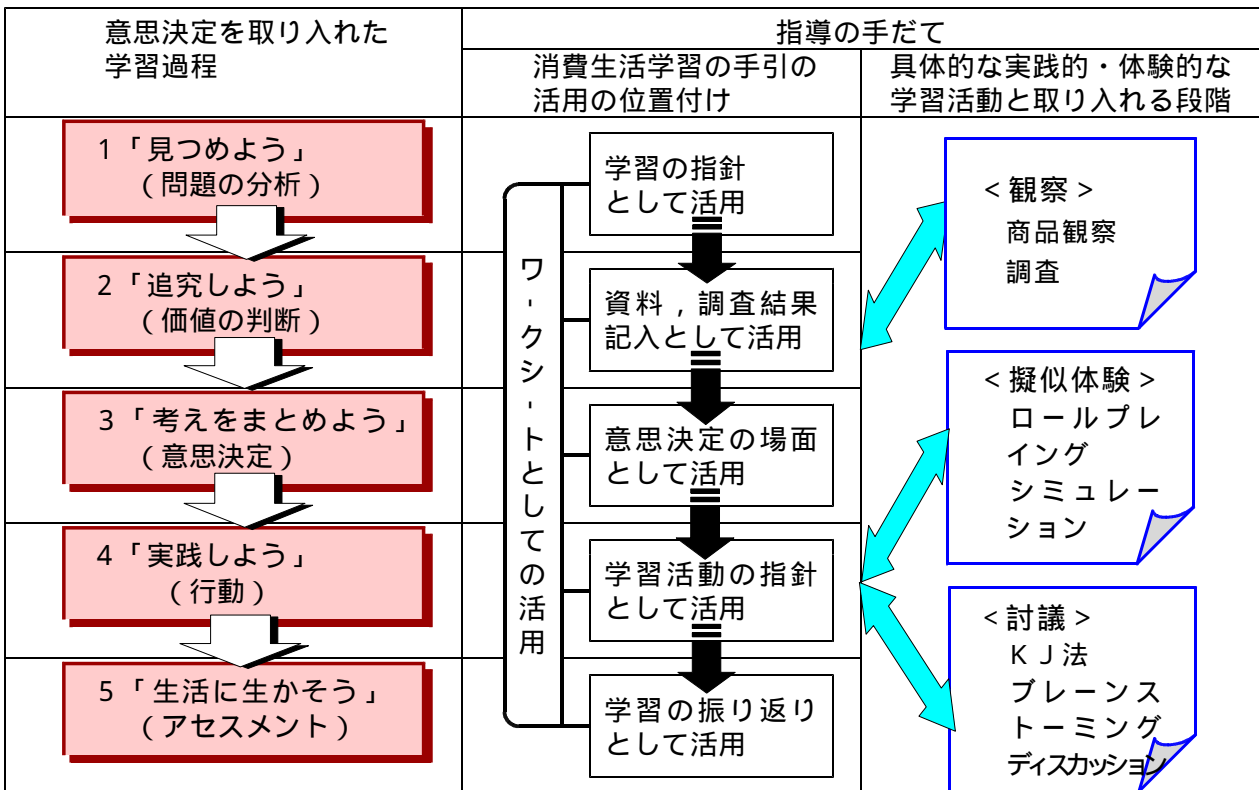
【図2】技術・家庭科家庭分野における基礎的な知識と技術を習得させるための学習指導についての基本構想図

2 消費生活学習の手引の活用を位置付けた手だての試案と検証計画

ここでは、消費生活学習の手引の活用を位置付けた手だての試案と検証計画について示す。手だての試案は、消費生活学習の手引の活用を、学習過程の各段階に位置付け、さらには、実践的・体験的な学習活動と、取り入れる段階を合わせて示したものである。

(1) 消費生活学習の手引の活用を位置付けた手だての試案

消費生活学習の手引の活用を位置付けた手だての試案を、【図3】に示す。消費生活学習の手引を用いて、1単位時間において意思決定を取り入れた学習過程で授業を行う。この手引のねらいは、生徒に基礎的な知識と技術を習得させ、主体的に消費生活を営もうとする意識を高めることである。意思決定を取り入れた5つの学習過程は、手引のワークシートに、その順に位置付けている。意思決定を取り入れた学習過程には、各段階で効果的な実践的・体験的な学習活動が取り入れられる。「追究しよう」段階には、「観察」の学習活動を、「実践しよう」段階には、「疑似体験」、「討議」の学習活動を取り入れる。この理由は、「観察」は価値を判断するために、実際に確かめることを目的としていることと、「疑似体験」、「討議」は、意思決定したことについて、これらの学習活動をとおして、確認したり、行動したりすることを目的とするからである。



【図3】消費生活学習の手引の活用を位置付けた手だての試案

(2) 検証計画

手だての試案に基づいた授業実践により、基礎的な知識と技術を習得させる学習指導の妥当性を確かめるための検証計画を【表9】に示す。【表9】は検証内容と方法、及び処理・解釈の方法を示したものである。

【表9】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
・基礎的な知識と技術の習得状況	・消費生活における基礎的な知識の習得 ・消費生活における基礎的な技術の習得	・テスト法 ・実技テスト法	・事前・事後にテストを行い、分析、考察する。 ・抽出した生徒が記述したものを分析、考察する。 ・事後に実技テストを行い、分析、考察する。
・主体的に消費生活を営もうとする意識	・学習内容を生かして主体的に消費生活を営もうとする意識	・質問紙法	・事前・事後のアンケートを行い、意識の変容を分析する。
・指導の手だての有効性	・学習の手引を活用した学習に関する意識 ・実践的・体験的な学習活動に関する意識	・質問紙法 ・学習感想	・学習の手引に関する意識を事後調査し、分析、考察する。 ・実践的・体験的な学習活動に関する意識を事後調査し、分析、考察する

【表10】には、実技テスト法による、技術の習得状況を判断するための基準を示した。

【表10】実技テスト法による技術の習得状況を判断するための基準

	判断項目	実技テストの内容	判断するための基準		
			A	B	C
テスト1	物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができる。	示された商品の中から、今度使用・購入したい商品を選択し、その選択理由を述べる。もしくは選択しない理由を述べる。	商品の良さのほか、環境への配慮や自分の生活とのかかわりから、説明している。情報の少なさや、短時間の選択を理由に、選択しない。	どのようなことからその商品を選んだのか、自分の価値付けを説明している。もしくは選択しない理由を説明している。	価値付けの説明ができない。選択せず、その理由も述べることができない。
テスト2	環境に配慮した物資の選択・購入ができる。	示された商品の中から、自分が環境に配慮していると思った商品を選択し、その選択理由を述べる。	なぜ環境に配慮していると判断したのか、自分の価値判断や表示などの根拠を示し、説明している。	なぜ環境に配慮していると判断したのか、説明している。	なぜ環境に配慮していると思ったのか説明できない。
テスト3	リサイクルマークを確認し、ごみ(容器包装)を分別することができる。	渡されたごみ(容器包装)を、表示にしたがって分別する。	リサイクルマークを確認し、3種類とも、正しく分別する。	リサイクルマークを確認し、2種類のごみを、正しく分別する。	1種類のごみしか分別できない。リサイクルマークが判別できない。

3 消費生活学習の手引を活用した授業実践と実践結果の分析と考察

消費生活学習の手引を活用した授業実践は、研究協力校で2年生33名を対象に行われた。授業実践の概要について述べ、基礎的な知識と技術の習得状況について分析、考察する。

(1) 授業実践の概要

消費生活学習の手引を活用した授業実践の概要を述べる。実施対象は、研究協力校である花巻市立東和中学校2年2組33名(授業実践中に1名増)で、実施期間は平成19年7月17日から9月4日である。授業実施日と学習内容は、【表11】のとおりである。

【表11】授業実践日と学習内容

時数	実施日	学習内容
第1時	7月17日	1「お金について考えてみよう」
第2時	7月17日	2「商品とサービスを選ぼう」
第3時	7月24日	3「商品とサービスを選ぼう」
第4時	7月24日	4「販売方法を選択しよう」
第5時	8月28日	5「消費トラブルの対処方法を考えよう」
第6時	8月28日	6「自分の生活の環境への影響を考えよう」
第7・8時	9月4日	7「地球に優しい暮らしを考えよう」

さらに、手だての試案に基づいた授業実践の(第6時)の概要を、13~14頁の【資料5】にまとめた。本時は、自分の生活が環境に対してどんな影響をもっているのか、それを改善するために、自分ができることは何かを考えていく授業である。実践的・体験的な学習活動として、「観察」の調査と、「疑似体験」のシミュレーションを手だてとした。生徒は、消費生活学習の手引を活用しながら、授業に臨んでいた。詳細を【資料5】に示す。

【資料5】授業実践の概要（6 / 8時間）

本時の目標 自分の生活を振り返り，環境に与える影響に配慮して行動を工夫できる。
ごみの分別をすることができる。

生徒の学習課題 「3R推進のために自分ができることはなんですか。」

意思決定を取り入れた学習過程

消費生活学習の手引の活用場面

教師の働きかけ 生徒の反応 実践的・体験的な学習活動

1 見つけよう

給食のない日です。お家で作ったお弁当とお店で買ったお弁当の違いは何でしょうか。

今日は市販されているお弁当の容器の重さ調べをし，3R推進のために自分ができることを考えていきます。

手作りは経済的だし，安全。でも作る手間がかかるなあ。お弁当を買うとらく。でもお金がかかるし・・・

・・・あっ，ごみがでる。

学習の指針としての活用



2 追究しよう

買ったお弁当や麺類の容器の重さを計ってみましょう。

そばとスープを別にしよう。


2 追究しよう			
(1)それぞれの商品を容器から出し，容器のかさや重さがどれくらいか調べてみま			
商品	おでかお弁当	（しんぱん）	
かさ	30	30	
重さ	全260 #180	全100 #70	
気づいたこと	かたてかたて 3で思っ	左に同じ	

ワークシートの活用例

花巻市のごみの現状はどうなっていますか。手引の資料で確認しましょう。また，ごみの分別方法も資料を見て学習しましょう。

資料としての活用

結構，容器ってがさばってるね。



3 考えをまとめよう

3Rの推進のために自分ができることを考えてみましょう。現在の自分の生活を振り返り考えをまとめてみましょう。

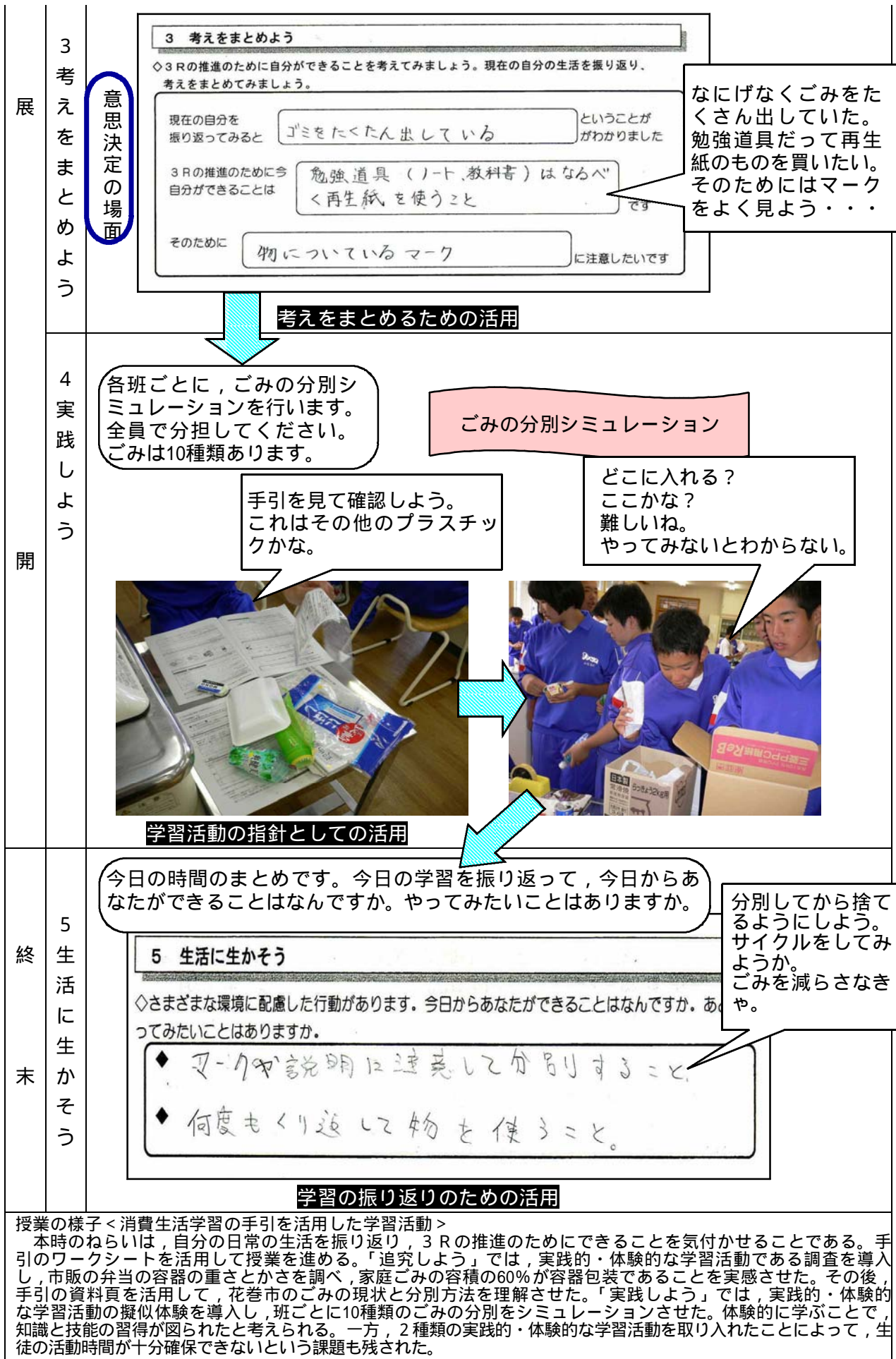
意思決定の場面

現在の自分を振り返ってみると **まだゴミを捨てていて** ということがわかりました

3Rの推進のために今自分ができることは **ゴミの削減** です

そのために **スープの袋(マヨネーズ)** に注意したいです

今までの自分は意識しないでただごみを捨てていたなあ。ごみを減らすためにできることは・・・



授業の様子<消費生活学習の手引を活用した学習活動>

本時のねらいは、自分の日常の生活を振り返り、3Rの推進のためにできることを気付かせることである。手引のワークシートを活用して授業を進める。「追究しよう」では、実践的・体験的な学習活動である調査を導入し、市販の弁当の容器の重さとかさを調べ、家庭ごみの容積の60%が容器包装であることを実感させた。その後、手引の資料頁を活用して、花巻市のごみの現状と分別方法を理解させた。「実践しよう」では、実践的・体験的な学習活動の擬似体験を導入し、班ごとに10種類のごみの分別をシミュレーションさせた。体験的に学ぶことで、知識と技能の習得が図られたと考えられる。一方、2種類の実践的・体験的な学習活動を取り入れたことによって、生徒の活動時間が十分確保できないという課題も残された。

(2) 実践結果の分析と考察

検証内容は、「消費生活における基礎的な知識と技術の習得状況」、「主体的に消費生活を営もうとする意識」、「指導の手だての有効性」の3点である。検証した結果、それぞれについて変容が見られ、手だての試案に基づく授業実践は有効であったと考えられる。

ア 基礎的な知識と技術の習得状況について

分析の結果、基礎的な知識については、事前・事後テストにおける、消費生活に関する学習内容の正答率と抽出生徒のテストの記述問題による結果から、習得されたことが確認できた。

一方、基礎的な技術については、実技テストの結果から、基礎的な技術が身に付いてきたことが確認できた。以下に、分析の詳細を示す。

(ア) 消費生活における基礎的な知識の習得 【表12】基礎的な知識に関する学習内容の習得状況 (N = 32)

消費生活に関する学習内容のテストによる分析

【表12】に事前・事後テストによる学習内容の習得状況を示す。テスト全体でみると、事前で44.6%、事後で76.8%の正答率となっている。このことから、消費生活における基礎的な知識に関する学習内容は、概ね習得できたと考えられる。

項目の中で、最も正答率が高く、事前・事後テストの変容がみられたものは、「環境に配慮した消費生活に関する内容」である。事前の42.7%が事後では91.7%に高まったことが確認できた。3R（リデュース、リユース、リサイクル）について、消費生活学習の手引で繰り返して学習する構成にしたこと、ごみを実際に分別するシミュレーションの学習活動を取り入れたことから、知識の習得が図られたと考えられる。

一方、比較的正答率が低かった項目は、「消費者保護に関する内容」であった。事前テストの結果から、中学校で初めて学ぶ難しい学習内容であることが予想された。そこで、学習の手引の資料を活用し、消費者の権利と責任にかかわる法律や制度の解説を行った。それによって、事後の正答率は伸びたと考えられる。

1の(4)の日本通信販売協会会員マークの判別の習得が、芳しくなかった要因としては、授業で重点的に扱わなかったこと、学習チェック問題に出題しなかったことが考えられる。

抽出生徒のテストの記述問題による分析

【表13】に、記述式の問題の回答において、基礎的な知識の習得が確認された2名の抽

項 目 設 問 内 容 (記 述 式)	正答率 (%)	
	事前	事後
1. 販売方法に関する内容	56.3	76.8
(1) 店舗販売と無店舗販売を選びなさい。	92.2	96.5
(2) 代金の支払い方法を選びなさい。	79.7	93.0
(3) 通信販売を利用するときに、事前に確かめることを3つ書きなさい。	31.3	67.7
(4) 日本通信販売協会会員マークを選びなさい。	21.9	50.0
2. 消費者保護に関する内容	32.0	64.2
(1) 消費者を守る法律の名称を選びなさい。	52.1	74.0
(2) 悪質な商法を解約できる制度を答えなさい。	18.8	59.4
(3) 消費者に保証されているものと果たすべきものを答えなさい。	25.0	59.4
3. 物資・サービスの選択・購入に関する内容	47.6	74.5
(1) 契約が成立しているものを選びなさい。	46.1	60.2
(2) 商品を選ぶときの条件を答えなさい。 【シャンプー・美容院・菓子】	63.9	97.6
(3) トラブルにあったときの解決法を答えなさい。 【キャッチセールス・架空請求】	32.8	65.6
4. 環境に配慮した消費生活に関する内容	42.7	91.7
(1) 3Rとは何が答えなさい。	43.8	90.6
(2) ごみの分別方法を答えなさい。 【ペットボトル・トレイ・牛乳パック】	41.7	92.7
全 体	44.6	76.8

注) 1 設問ごとに100点満点に換算して平均正答率で表す。さらに1～4の内容ごとに平均正答率を出し、4つの内容の平均を全体の正答率とした。
2 事前テストは7月11日、事後テストは9月25日に実施した。

出生徒の記述状況を示し、考察を加える。抽出生徒2名は、事前テストにおいて、無回答の多かった生徒である。どちらの生徒も、事後テストでは、正確に記述している。これは、生徒の日常の場面の教材化を図り、意思決定を行ったことで、自分の意見として回答することができたことによると考えられる。抽出生徒の学習の手引に関するアンケート記述には、「説明がくわしかつ

【表13】抽出生徒のテストの記述問題による分析

生徒	事前	事後
A	1(3)通信販売を利用するときに、事前に確かめることを3つ書きなさい。 ・無回答	・「返品は可能か」、「送料はかかるか」、「ジャドママークはついているか」
	3(2)商品を選ぶときの条件を答えなさい。 【シャンプー・美容院・菓子】 ア シャンプー ・無回答 イ 美容院 ・無回答 ウ 菓子 ・無回答	・「メーカー」、「価格」、「性能」、「場所」、「価格」、「店の雰囲気」、「味」、「品質」、「賞味期限」
	3(3)トラブルにあったときの解決法を答えなさい。 【キャッチセールス・架空請求】 ア キャッチセールス・無回答 イ 架空請求 ・「シカトする」	・市役所の生活相談窓口にご相談する ・無視する
B	1(3)通信販売を利用するときに、事前に確かめることを3つ書きなさい。 ・無回答	・「返品できるか」、「ジャドママークがついているか」、「後払いか」
	3(2)商品を選ぶときの条件を答えなさい。 【シャンプー・美容院・菓子】 ア シャンプー ・無回答 イ 美容院 ・無回答 ウ 菓子 ・無回答	・「価格」、「詰め替え用」、「量」、「信頼できるか」、「価格」、「サービスがよいか」、「量」、「価格」、「賞味期限」
	3(3)トラブルにあったときの解決法を答えなさい。 【キャッチセールス・架空請求】 ア キャッチセールス・無回答 イ 架空請求 ・無回答	・クーリング・オフを利用する ・無視する。近くの相談窓口に行って、被害の状況を聞いてもらう。

た。内容がまとめられていて、ただノートに写すより、授業に集中できた。きれいにまとめることができうれしかった。」と記述されていた。これらの記述から、手だての試案によって、基礎的な知識に関する学習内容が習得されたと判断できる。

(1) 消費生活における基礎的な技術の習得

実技テストの概要

消費生活における基礎的な技術の習得状況について、該当学級の全生徒を対象に実技テストを実施し、検証した。問題は3問で、「商品の選択・購入」、「環境に優しい商品の選択」、「ごみの分別」の内容である。「商品の選択・購入」と「環境に優しい商品の選択」のテストでは、商品を選択したほかに、商品を選択した理由を説明させることにした。これは、本研究における技術の習得は、単に選択・購入できる行動をさすのではなく、学んだ知識を生かし、自分の価値判断において、選択・決定できる力に高めていくことであるととらえたからである。

家庭生活と消費の授業では、作品の評価がない分、授業の観察だけで、技術の習得の様子を見取ることが多い。しかし、全生徒の習得状況を限られた時間で見取るとは大変難しい。このような状況を改善する上でも、実技テストは大変有効であった。

実技テストの様子と、テスト場面の設定の様子を、【図4】、【図5】に示す。【図4】は、ごみの分別のテストにおいて、生徒がリサイクルマークを確認しているところである。【図5】中の表示には、商品名と価格を記してある。



【図4】リサイクルマークを見る生徒 【図5】テスト場面の設定

消費生活における基礎的な技術の習得

授業実践後の実技テストによる技術の習得状況と生徒の実際の選択理由の例を【表13】に示す。

【表13】基礎的な技術に関する習得状況

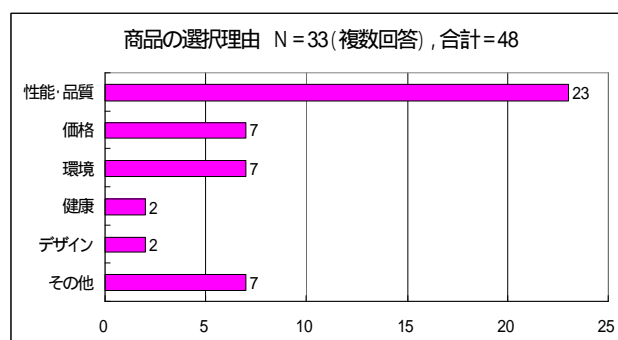
	判断項目	実技テストの 場面設定	生徒の選択理由の例と習得状況(%)		
			A	B	C
テスト1	物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができる。	示された商品の中から、今度使用・購入したい商品を選択し、その選択理由を述べる。もしくは選択しない理由を述べる。	33.3% ・エコマーク付きなので環境にいい。 ・肌に優しいものを使ってみたかった。 ・この書き味を探していたから。	60.6% ・グリップと発色がいい。 ・安くても長持ちしそう。 ・高いけど品質がよさそう。	6.1% ・安いから。
テスト2	環境に配慮した物資の選択・購入ができる。	示された商品の中から、自分が環境に配慮していると思った商品を選択し、その選択理由を述べる。(シャンプー、ペン)	37.9% ・ごみが少ない。 ・健康にいいから自然環境にもいい。 ・資源代がかかってない。 ・リンスなしで水の節約になる。	56.1% ・安いから、お得である。 ・無添加と書いてあるから。 ・インクがなくなっても便利。 ・作りがかんたん。	6.0% ・安いから。 ・なんとなく。 ・高いから。
テスト3	リサイクルマークを確認し、ごみ(容器包装)を分別することができる。	渡されたごみ(容器包装)を、表示にしたがって分別する。(缶詰め、アルミ、その他のプラスチック)	判断する基準(選択理由の調査なし)		
			54.5% リサイクルマークを確認し、3種類とも、正しく分別する。	45.5% リサイクルマークを確認し、2種類のごみを正しく分別する。	0.0% 1種類のごみしか分別できない。マークが判別できない。

注 実技テストは9月11日に実施した。(N=33)

テスト全体でみると、3題とも、A・Bと判断した生徒の割合が、90%以上であり、このことから、消費生活における基礎的な技術は習得できたと考えられる。ここでは、習得状況が特に高かったテスト3を除き、テスト1、2の分析の詳細を示す。

テスト1の「商品の選択・購入に関する内容」については、生徒の多くが、自分が使用・購入したい商品の価値を説明し、選択できた。Aと判断した生徒は、商品の良さに加えて、環境への配慮や、自分の持ち物と比較した価値観を選択していた。Bと判断した生徒からは、ペンを書き比べたり、表示を見比べたりして、慎重に選択する様子が見られた。【図6】に、テスト1において、生徒が商品を選択した理由の状況を示した。その結果、使いやすさなどの性能を理由としてあげた生徒が最も多く、次に価格と環境を理由としてあげていた。このことから、生徒は見た目や価格を優先して商品を選択するのではなく、使いやすさや表示を情報源として確かめながら、品質や性能のよさ、さらには環境に配慮した選択・購入ができる技術を習得したことが裏付けられたと言える。

テスト2の「環境に配慮した選択に関する内容」については、どの生徒もテストの中で、示された商品の表示を見比べる行動をとっていた。これは、商品の選択・購入において、できるだけ情報収集を行い、選択しようとする技術が身に付いたと考えられる。生徒が環境に配慮した商品と判断した理由は、シャンプーでは「ごみが少ない」、ボールペンでは「エコマークがついている」、「健康的」、「製造上、資源・コストがかからない」ことをあげていた。このことから、環境に配慮した商品について自分で価値判断し、選択したものと判断できる。

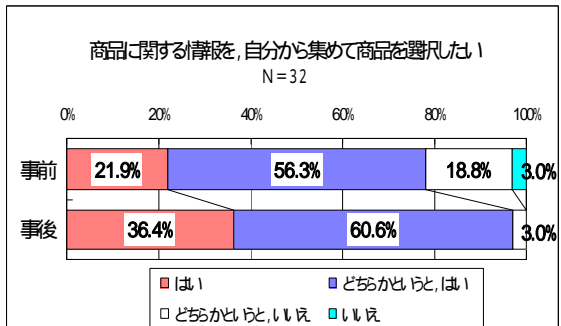


【図6】商品の選択理由の状況

イ 主体的に消費生活を営もうとする意識について

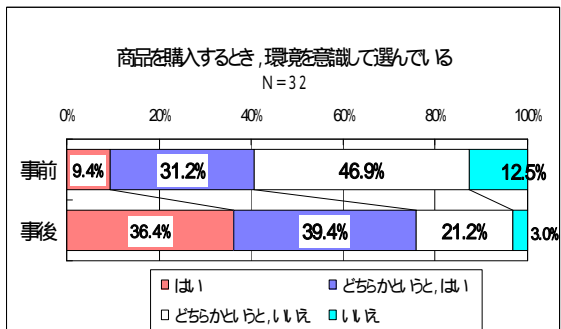
主体的に消費生活を営もうとする意識について、事前・事後アンケートの結果を基に、「情報収集の意欲」、「環境を意識した商品の選択・購入」、「知識と技術の活用」、「消費生活を見直そうとする意識」の4点から分析した。その結果、事後に主体的に消費生活を営もうとする意識が高まったと考えられる。以下に、詳細を示す。

【図7】は、情報収集の意欲についての結果である。肯定的にとらえた生徒は、事前の78.2%が、事後に97.0%となり、生徒の情報収集の意欲の高まりが確認できた。この理由として、生徒が、情報収集を行って商品を選択・購入する重要性を、意思決定を取り入れた学習過程によって、授業の中で実感するに至ったからだと推察できる。



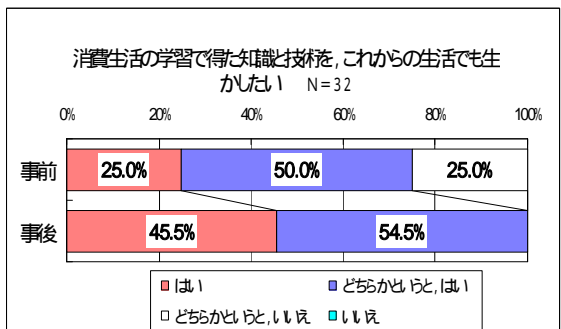
【図7】情報収集の意欲

【図8】は、環境を意識した商品の選択・購入についての結果である。肯定的に答えた生徒は、事前の40.7%から事後の75.8%となり、環境を意識した商品の選択・購入において変容が見られた。この理由として考えられることは、環境に配慮した消費生活について、教材化を図り、実践的・体験的な学習活動をとおして学んだことである。



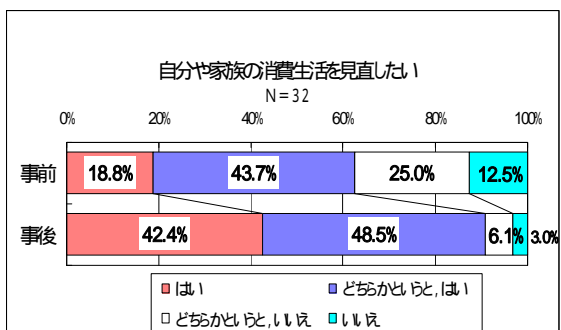
【図8】環境を意識した商品の選択・購入

【図9】は、「消費生活の学習で得た知識と技術を、これからの生活でも生かしたいか」という、活用に関する問いの結果である。活用の意識については、肯定的に答えた生徒は、事前の75.0%が事後に100%となり、意識の高まりが確認できた。この理由として考えられることは、次の二つである。一つは学習の手引に、身に付けてほしい知識と技術を明らかにしたことで生徒の意識の向上が図られたこと、もう一つは、授業をとおして得た知識と技術が、今後自分が消費生活を営む上で重要であると認識するに至ったことである。



【図9】学んだ知識と技術の活用の意識

【図10】は、「自分や家族の消費生活を見直したい」という問いに対する結果である。肯定的にとらえた生徒は、事前の62.6%から、事後の90.9%となり、変容が確認できた。この理由として考えられることは、次の二つである。一つは、意思決定を取り入れた学習過程が、自分の生活や行動を見つめ直す機会と



【図10】消費生活を見直そうとする意識

なったこと、もう一つは、生徒の消費生活の実態に合った身近な題材を教材化し、指導計画を立案したことである。一方、意識の変容が見られなかった生徒については、家族の消費生活の改善をイメージしたときに、家族の中で、自分が果たすべき役割を真剣に受け止め考えた結果、回答が慎重になったためと考えられる。

ウ 指導の手だての有効性について

指導の手だての有効性について、学習の手引の有用性と、実践的・体験的な学習活動を取り入れた学習について、事後アンケートの結果と生徒の記述から分析した。詳細について以下に示す。

(ア) 学習の手引の有用性

作成した消費生活学習の手引は、消費生活の学習指導において効果があったと言える。【図11】は、学習の手引を活用した学習に関する問いである。その結果、94%の生徒が肯定的に回答した。これは、学習の見通しをもてたこと、学んだことをすぐ見直せること、説明や記述が理解されやすいものであったためと考えられる。

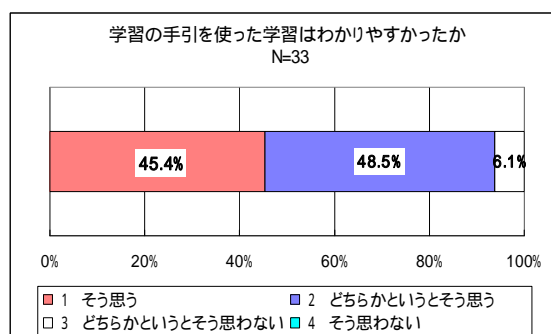
【資料6】の生徒の感想の記述からも、理解のしやすさや、意思決定を取り入れた学習過程で学ぶワークシートの効果が記述されている。一方、文章の表現方法と家庭での活用について、今後、吟味や検討が必要である。

【資料7】に、意思決定を取り入れた学習過程に関する生徒の感想を示した。生徒の記述から、初めの意思決定のあいまいさが、学習過程の中で、自分が納得する意見になっていくことや、意思決定を役立てたいと感じたことを、読み取ることができる。

さらに、【図12】は、学習の手引の有用性についての問いである。その結果、100%の生徒が肯定的に答えている。これは、学習の手引の内容と構成が、理解しやすい内容であったこと、手引を活用した学習過程や学習活動によって、基礎的な知識と技術が習得され、生徒の役立ち感が高まったものと判断できる。

(イ) 実践的・体験的な学習活動を取り入れた学習

【資料8】は、実践的・体験的な学習活動を取り入れた授業に関する生徒の記述である。代表的な記述として、体験をとおして学習することによって、分かりやすい、興味をもてた、分



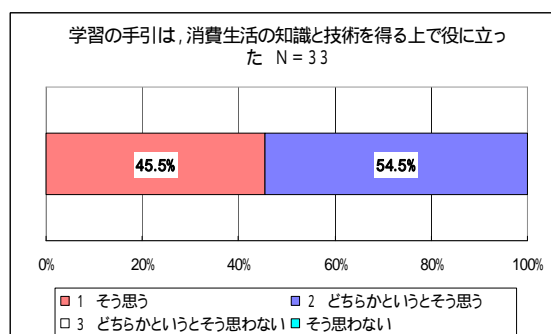
【図11】学習の手引を活用した学習

【資料6】学習の手引を活用した授業の感想

- ・いろいろな資料や絵が書いてあったり、重要なことばがのっていたりで、とてもわかりやすかった。
- ・考えるところで例題があったので、わかりやすかった。
- ・シナリオを使ってどういう場面の話かわかりやすく説明していたから。
- ・活動をするとき、参考にできてよかった。
- ・ノートを楽しくることができた。
- ・難しいところもあった。
- ・手引を持ち帰ることができれば復習がやりやすくなると思う。

【資料7】意思決定を取り入れた学習過程に関する生徒の感想

- ・最初はいまいな意見だったけど、意思決定までにしっかりした意見になっているのがわかったのでよかった。
- ・そういう場面にあったときは、しっかり考えて買うようにしたいとこの学習で思った。
- ・自分だけの考えやほかの人の考えを知ることができておもしろかった。
- ・自分で考えたことがなかったから、これからは役に立てようと思った。



【図12】学習の手引の有用性

からないことが体験によって分かってきた，生活に生かしたいという思いが高まったなどがあげられる。その理由として考えられることは，次の3点である。1点目は，実際に体を動かして活動することで，学んだ内容を理解しやすいこと，2点目は，経験したことのない活動を体験することによって，題材に関する興味・関心が高まること，3点目は，生活場面をイメージしやすいことから，主体的に生活を営もうとする意識が高まりやすいからである。手だてとして選択した，「疑似体験」，「討議」，「観察」の学習活動についても，生徒が主体的に活動が展開した様子から効果があったと考えられる。

【資料8】実践的・体験的な学習活動を取り入れた授業の感想

- ・何もしていないより体験とかした方がわかりやすかった。
- ・見たり聞いたりするよりも，自分で体験できたので，生活に生かしたいという思いが高まった。
- ・ロールプレイングなどの体験をとおして，あまり体験したことがない勉強もあったので楽しかった。
- ・自分たちでごみの分別をしてみて，わからなかったごみの分別がわかってきたので，これから役に立たせたい。
- ・ほかの人と契約のやりとりが体験できてよかった。
- ・仲間とのコミュニケーションもとれたし，学習力が高まった。
- ・自分で体験してみて，恥ずかしかったけど，おもしろかった。
- ・難しかった。

4 基礎的な知識と技術を習得させる学習指導についてのまとめ

平成18年度から平成19年度にわたって取り組んできた本研究の成果と課題についてまとめる。今年度は消費生活における基礎的な知識と技術を習得させるために，消費生活学習の手引を作成し，それを活用した授業実践を行った。その研究成果として次の4点が，課題として2点があげられる。

(1) 成果

ア 消費生活の基礎的な知識と技術を習得させる学習指導において，消費生活学習の手引を作成することができた。この手引の構成は，意思決定を取り入れた学習過程で学ぶワークシート，授業の内容を補充する資料，ロールプレイングのためのシナリオ，学習の指針となる学習スケジュール，基礎的な知識と技術を復習する学習チェックとした。さらに，教師の指導を支援するために，ワークシートの解説と学習指導案を盛り込んだ解説編の作成を行うことができた。

イ 意思決定を取り入れた学習過程に，消費生活学習の手引の活用を位置付け，さらには，実践的・体験的な学習活動を取り入れることを指導の手だてとし，授業実践計画及び検証計画を立案することができた。

ウ 消費生活学習の手引を活用した授業実践を行うことによって，基礎的な知識と技術の習得が見られ，主体的に消費生活を営もうとする意識も高まった。さらに，消費生活学習の手引の有用性と，実践的・体験的な学習活動の効果も確かめられた。

エ 消費生活の学習指導において，意思決定を取り入れた学習過程で学ぶ消費生活学習の手引を作成，活用し，実践的・体験的な学習活動をとおして学習することによって，消費生活における基礎的な知識と技術を習得させることができた。

(2) 課題

ア 消費生活学習の手引を活用した授業実践をとおして，生徒の学習活動時間の確保が課題となったことから，指導計画と手引に修正を加え，活用しやすいものに改善すること

イ 実技テストを実施した結果，テスト時間の確保と，出題が漏れないような配慮の必要性などの課題が明らかになったことから，テストの方法等に修正を加え，提案していくこと

研究のまとめ

本研究は、家庭分野における消費生活の学習において、基礎的な知識と技術を明確にし、商品の選択や購入にかかわる意思決定の場面を盛り込んだ消費生活学習の手引を作成し、活用することによって、基礎的な知識と技術を習得させる学習指導の改善に役立てようとするものである。

2年次研究の第1年次である昨年度は、基礎的な知識と技術の習得させる学習指導の基本構想と手だての試案の作成、手引の概要の検討を行った。

第2年次にあたる今年度は、消費生活学習の手引の作成と、その手引を活用した授業実践を行った。その後、基礎的な知識と技術の習得状況、主体的に消費生活を営もうとする意識、指導の手だてについて分析を行い、手だての有効性を確認した。

2年間の研究の成果と課題について、次のようにまとめることができる。

1 研究の成果

消費生活学習の手引の作成

消費生活における基礎的な知識と技術の具体的な内容を明らかにし、学習題材の関連を図りながら、意思決定を取り入れた5つの学習過程にそって、実践的・体験的な学習活動を各段階に効果的に取り入れた消費生活学習の手引を作成することができた。

消費生活における基礎的な知識と技術を習得させる消費生活学習の手引の活用

研究協力校の授業実践において、消費生活学習の手引を活用し、意思決定を取り入れた学習過程で繰り返し学ぶことによって、消費生活における基礎的な知識と技術が高まったことを確認することができた。さらに、実践的・体験的な学習活動をとおして学ぶことは、知識と技術の習得に有効であり、生活に生そうとする意識が向上することを確認することができた。

2 今後の課題

学校や、地域、生徒の実態に合わせながら、授業でより効果的に活用されるために、消費生活学習の手引の改良が必要である。

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方、生徒の皆さんに心からお礼申し上げます。

【引用文献】

- 今井光映（1987）,『家政学と家庭経営学と消費者教育』,『消費者教育第6冊』,光生館,pp.34 - 37
工藤悦子,内野紀子ほか（1997）,『家庭科の21世紀プラン』,家政教育社,p.34
佐藤文子ほか（1999）,『主体的に生活をつくる』,学術図書出版社,p.58
J.G.ポニスほか（1998）,『賢い消費者』,家政教育社,p.12
藤枝恵子,内藤道子（1979）,『家庭科教育における消費者教育指導の実際』,家政教育社,pp.24 - 27
武藤八重子ほか（1992）,『消費者教育を導入した家庭科の授業』,家政教育社,pp.44 - 45
八重樫夫佐子（2005）,『技術・家庭科における基礎的な知識と技術を習得させる学習指導に関する研究』,平成17年度岩手県教育研究発表会資料,p.2

【参考文献】

- 消費者教育支援センター（1995）,『消費者教育授業実践60』,消費者教育支援センター
高橋伸子（2006）,『いま,なぜ,金融・消費者教育なのか』,2006年夏季シンポジウム学校における金融・消費者教育の新たな展開パネルディスカッション
内藤道子ほか（2000）,『生活の自立と創造を育む家庭科教育』,家政教育社
西村隆男（1999）,『日本の消費者教育』,有斐閣
武藤八重子（1998）,『家庭科教育再考』,家政教育社

補助資料

～目次～

【資料1】事前・事後アンケート	-----	資1
【資料2】事前・事後テスト	-----	資2～資3
【資料3】事前・事後テストの解答	-----	資4～資5
【資料4】評価計画	-----	資6
【資料5】学習指導案	-----	資7～資13

【資料 1】

「消費生活の学習に関するアンケート」(事前・事後)

2年 2組 番 名前

このアンケートは、消費生活の学習についての意識を調べるためのものです。
下の質問について、4段階の番号の中から自分の考えに最も近い番号を一つだけ選びをつけてください。

- 【番号の意味】 1 ----- 思う(はい)
2 ----- どちらかというところ思う(どちらかというところ、はい)
3 ----- どちらかというところ思わない(どちらかというところ、いいえ)
4 ----- 思わない(いいえ)

商品を購入するとき、自分の意見をもって決定している。 ----- 1 - 2 - 3 - 4

商品に関する情報を、自分から集めて商品を選択したい。 ----- 1 - 2 - 3 - 4

商品を購入するとき、環境を意識して選んでいる。 ----- 1 - 2 - 3 - 4

消費生活の学習で得た知識と技術は、生活に役立つ。 ----- 1 - 2 - 3 - 4

消費生活の学習で得た知識と技術を、
これからの生活でも生かしたい。 ----- 1 - 2 - 3 - 4

自分や家族の消費生活を見直したい。 ----- 1 - 2 - 3 - 4

学習の手引を使った学習はわかりやすかった。 ----- 1 - 2 - 3 - 4

理由

学習の手引は、消費生活の知識と技術を得る上で
役に立った。 ----- 1 - 2 - 3 - 4

意思決定を取り入れた学習の流れについて、どう感じたか感想を書いてください。(事後のみ)

感想

ロールプレイングや調査活動など体を使った学習について、どう感じたか感想を書いてください。
(事後のみ)

感想

今までの授業全体の感想を自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました

1. 商品の販売方法と支払い方法について、次の問いに答えなさい。 【販売方法】

(1) 身近にある店舗販売と無店舗販売の例を、下のア～クから、すべて選びなさい。

店舗販売

無店舗販売

- ア 無人販売所 イ スーパーマーケット ウ 通信販売 エ 自動販売機
 オ コンビニエンスストア カ くつ屋 キ 訪問販売 ク デパート

(2) 代金の支払い方法において、前払い・即時払い・後払いの例を、下のア～クから、すべて選びなさい。

前 払 い	即 時 払 い	後 払 い

- ア 図書カード イ 電話の使用料 ウ 定期券 エ 電気代
 オ スーパーの買い物を現金で支払う カ クレジットカード
 キ テレホンカード ク ハンバーガーショップでハンバーガーを買う

(3) 通信販売を利用するとき、事前に確かめることを3つあげなさい。(商品以外のこと)

1	
2	
3	

(4) 日本通信販売協会会員マークを、下から選んで記号で答えなさい。

ア



イ



ウ



2. 消費者保護について、次の問いに答えなさい。 【消費者保護】

(1) 次の消費者を守る法律の内容をよく読み、その名称を下の ~ から選んで記号で答えなさい。

- ア 製品に不都合が生じた場合の責任の所在を明らかにしている法律。
 欠陥によって損害を被った場合、損害賠償を求めることができる。
- イ 1968年に制定されたものを大幅に見直し、2004年に新法が成立した。
 消費者の権利や、消費者の自立支援を定めている法律。
- ウ 悪質な勧誘などを取り消すことができる消費者と事業者の間に適用される法律。

ア	
イ	
ウ	

- 消費者契約法 消費者憲法 消費者基本法
 契約基本法 製造物責任法 (P L 法)

(2) 店舗販売以外の悪質な商法などで契約した場合、一定期間であれば解約できる制度があります。それをなんといいいますか。その名称を答えなさい。

(3) 下の文章の()に、適することばを入れなさい。

消費者と事業者が対等な立場で売買契約を結ぶには、消費者にさまざまな(ア)が保障されなくてはなりません。同時に、それを守るためには、消費者としての(イ)を果たすことがもとめられています。

ア
イ

3. 物資・サービスの選択・購入について、次の問い答えなさい。【物資・サービスの選択・購入】

(1) 次の場合、契約が成立しているのはどれですか。すべて選んで記号で答えなさい。

- ア バスに乗って出かけた。
- イ 自動販売機でジュースを購入した。
- ウ お店でトレーナーを後で買うと、口約束をした。
- エ 食堂に電話して出前でラーメンを注文した。

--

(2) 次の商品を購入するとき、選ぶ条件は何ですか。3つずつ書きなさい。

ア シャンプー	イ 美容院	ウ 菓子

(3) もし、次のような場面になったとき、問題を解決するためにはどのような方法がありますか。どのように行動すればよいか答えなさい。

ア 街角で声をかけられ、ことばにのせられて、高価な英会話教材を後払いで契約した。	イ 携帯電話にメールが届き、無料と書かれたURLをクリックしたら、「登録完了」となり、その後高額な料金を請求された。

4. 環境に配慮した生活について、次の問いに答えなさい。 【環境に配慮した消費生活】

(1) 環境に配慮した暮らし方として「3R」を実践することが大切とされています。3Rとは何を意味することばですか。答えなさい。

--

(2) 次のごみの分別の方法を詳しく答えなさい。

ア ペットボトル	イ 食品のトレイ	ウ 牛乳パック

1. 商品の販売方法と支払い方法について、次の問いに答えなさい。 【販売方法】

(1) 身近にある店舗販売と無店舗販売の例を、下のア～クから、すべて選びなさい。

店舗販売 イ, オ, カ, ク

無店舗販売 ア, ウ, エ, キ

ア 無人販売所 イ スーパーマーケット ウ 通信販売 エ 自動販売機
 オ コンビニエンスストア カ くつ屋 キ 訪問販売 ク デパート

(2) 代金の支払い方法において、前払い・即時払い・後払いの例を、下のア～クから、すべて選びなさい。

前 払 い	即 時 払 い	後 払 い
ア, ウ, キ	オ, ク	イ, エ, カ

ア 図書カード イ 電話の使用料 ウ 定期券 エ 電気代
 オ スーパーの買い物を現金で支払う カ クレジットカード
 キ テレホンカード ク ハンバーガーショップでハンバーガーを買う

(3) 通信販売を利用するときに、事前に確かめることを3つあげなさい。(商品以外のこと)

1	送料の負担, 支払い方法, 商品の引き渡し方法, 返品・交換できるか, 解約手数料, ジャドママークが付いているか, などから3点書く
2	
3	

(4) 日本通信販売協会会員マークを、下から選んで記号で答えなさい。

ア  イ  ウ  イ

2. 消費者保護について、次の問いに答えなさい。 【消費者保護】

(1) 次の消費者を守る法律の内容をよく読み、その名称を下の ~ から選んで記号で答えなさい。

ア 製品に不都合が生じた場合の責任の所在を明らかにしている法律。欠陥によって損害を被った場合、損害賠償を求めることができる。	ア
イ 1968年に制定されたものを大幅に見直し、2004年に新法が成立した。消費者の権利や、消費者の自立支援を定めている法律。	イ
ウ 悪質な勧誘などを取り消すことができる消費者と事業者の間に適用される法律。	ウ

消費者契約法 消費者憲法 消費者基本法
 契約基本法 製造物責任法 (P L 法)

(2) 店舗販売以外の悪質な商法などで契約した場合、一定期間であれば解約できる制度があります。それをなんといいいますか。その名称を答えなさい。

クーリング・オフ制度

(3) 下の文章の()に、適することばを入れなさい。

消費者と事業者が対等な立場で売買契約を結ぶには、消費者にさまざまな(ア)が保障されなくてはなりません。同時に、それを守るためには、消費者としての(イ)を果たすことがもとめられています。

ア	権利
イ	責任(義務)

3. 物資・サービスの選択・購入について、次の問い答えなさい。【物資・サービスの選択・購入】

(1) 次の場合、契約が成立しているのはどれですか。すべて選んで記号で答えなさい。

- ア バスに乗って出かけた。
- イ 自動販売機でジュースを購入した。
- ウ お店でトレーナーを後で買うと、口約束をした。
- エ 食堂に電話して出前でラーメンを注文した。

ア, イ, ウ, エ

(2) 次の商品を購入するとき、選ぶ条件は何ですか。3つずつ書きなさい。

ア シャンプー	イ 美容院	ウ 菓子
<ul style="list-style-type: none"> ・汚れ落ちのいいもの ・効果が期待できるもの ・価格が手ごろなもの ・詰め替えボトルがあるもの ・成分が自然のもの ・健康や髪に優しいもの <p style="text-align: center;">などから3つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・距離が近い ・信頼できる美容師がいる ・カット技術がいい ・価格が手頃 ・家族が行くところ ・清潔感のあるところ ・信頼できるところ <p style="text-align: center;">などから3つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・価格と量が納得できる(安い, 量が多い) ・好みに合っている ・期間限定商品 ・お買い得商品 ・成分表示を見て ・賞味期限を見て ・ごみの少ないもの <p style="text-align: center;">などから3つ</p>

(3) もし、次のような場面になったとき、問題を解決するためにはどのような方法がありますか。どのように行動すればよいか答えなさい。

<p>ア 街角で声をかけられ、ことばにのせられて、高価な英会話教材を後払いで契約した。</p>	<p>イ 携帯電話にメールが届き、無料と書かれたURLをクリックしたら、「登録完了」となり、その後高額な料金を請求された。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・クーリング・オフ制度を利用し、契約解除通知を作る。 ・近くの相談窓口(東和支所など)に相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そのままにし、こちらから連絡はとらない(無視する)。

4. 環境に配慮した生活について、次の問いに答えなさい。 【環境に配慮した消費生活】

(1) 環境に配慮した暮らし方として「3R」を実践することが大切とされています。3Rとは何を意味することばですか。答えなさい。

<ul style="list-style-type: none"> リデュース(削減, ごみをださない) リユース(再使用) リサイクル(再利用)

(2) 次のごみの分別の方法を詳しく答えなさい。

ア ペットボトル	イ 食品のトレイ	ウ 牛乳パック
ふたとラベルはその他のプラスチック。本体は中をすすいで、ペットボトルの分別回収へ。	洗って乾燥させてその他のプラスチックへ。	水でよくすすぎ、切り開いて乾燥させ、資源回収に出す。

【資料4】「わたしたちの消費生活と環境」の評価計画

学習題材	学習活動	時間	評価規準				評価方法
			関心・意欲・態度	工夫・創造	生活の技能	知識・理解	
1 お金について	・今、自分がほしいものをイメージし、買えない場合の自分の行動について、中学校入学時の費用や、契約の重要性から、考える。	1	自分の消費生活に関心を持ち、お金の大切さを理解している。 (ワークシートP4の3記述)			契約と約束の違いを説明できる。 (ワークシートP4の5の記述)	・ワークシート
2 商品を選ぼう	・商品を選ぶ条件について、商品観察をとおして、表示やマークについて知り、KJ法によって、個人の意見をグループの意見にまとめる。	2			商品を選択・購入することができる。 (実技テスト)	商品を選ぶ条件を理解することができる。 (ワークシートP6の3の記述)	・ワークシート ・実技テスト
3 商品を選ぼう	・価格のさまざまなジープンの選択をとおして、価格やファッション、リサイクルなどについて考え、新たな選択条件に気づき、自分の考えを広げる。	3	衣類のリサイクルに関心を持つことができる。 (ワークシートP14の4の記述)		いろいろな観点から商品を選択することができる。 (ワークシートのP14の4の記入状況)		・ワークシート
4 販売方法を選択しよう	・通信販売の利用の注意点を知り、商品にや、場面に応じた販売方法や支払い方法が選択できる。	4			商品に応じて販売方法や支払い方法を選択することができる。 (ワークシートP18の3記述)	通信販売を利用するときの注意点を理解することができる。 (ワークシートP18の5の記述)	・ワークシート
5 消費トラブルの対処方法を考えよう	・悪質商法などのトラブルの例を知り、消費者が保護されていることや、正しい対処の方法を理解する。	5				悪質商法などのトラブルの例を知り、対処の方法を理解することができる。 (ワークシートP22の3,5の記述)	・ワークシート
6 自分の生活の環境への影響を調べよう	・弁当や食品の容器の重さやかさを調べることによって、ごみが環境に与える影響を考え、自分ができる生活を工夫する。	6		自分の生活を振り返り、環境に与える影響に配慮して行動を工夫できる。 (ワークシートP28の3記述)	ごみの分別をすることができる。 (シミュレーション場面、実技テスト)		・ワークシート ・観察 ・実技テスト
7 地球に優しい暮らしを考えよう	・地球に優しい暮らしの討議をもとに、学級環境宣言を作ることによって、自分の行動に責任を持ち、環境に配慮した生活を送る。	7 8	自分の意見をもって活動に意欲的に参加することができる。 (班討議、学級討議の観察) 環境に配慮した行動がとれる。 (ワークシートのP34の5の記述)	地球に優しい暮らしについて考え、課題解決のための意見を工夫している。 (ブレインストーミングのふせんの記述)			・観察 ・ふせん ・ワークシート

注)ここでは概ね満足できるBの状況を示した。具体的評価規準については、学習指導案に記載した。

【資料5】学習指導案

第1回

- 1 題材名 「お金について考えてみよう」(手引P1-4, 37)
- 2 本時の目標 自分の消費生活に関心を持ち、お金の大切さを理解することができる。
契約と約束の違いを理解することができる。

意思決定を取り入れた学習過程	学習活動 実践的・体験的な学習活動	指導上の留意点	教材・教具・手引(P) 評価(具体的評価規準・方法等)
導入 5	1 見つけよう 今ほしいものがあるか、小遣いで買えるか考える。 買えないときの自分の行動を想起する。 学習課題の設定	・今ほしいものがない場合は、あると仮定させ、どうするかを考えさせる。	手引ワークシート(P1-2)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習課題1 あなたはほしいものがあったらどうしますか </div>		
展開 40	2 追究しよう (1) 資料を参考に中学校入学時にかかった費用を計算する。 (2) 家庭の収支の仕組みを知る。 (3) 契約クイズから契約の意味と範囲を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校入学時の費用を算出し、自分が学校生活を送るためには、多額の費用がかかっていることを理解させる。 ・収入と支出のバランスがとれるとよいことを知らせる。 ・契約クイズから、契約の意味と範囲を知り、私たちの生活は消費生活で成り立っていることを知らせる。 	電卓 手引資料(P3)
	3 考えをまとめよう 「あなたはほしいものがあったらどうしますか」の意思決定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定とは、「自分の価値判断をもとに、ものごとを決めること」であると説明する。 ・理由づけが大切であることを補足し、机間支援により、表現が不十分な生徒には、付け加えさせる。 ・「1見つけよう」の考えと変化があるか着目させる。 	評価 【関心・意欲・態度】 自分の消費生活との関連から、お金の大切さを理解している。 具体規準 A 自分の消費生活と関連させて、お金を大切に使う記述がある。 B 自分の消費生活と関連させて、計画的な購入を考える記述がある。 方法支援 ワークシート3の記述 普段の消費生活を振り返らせ、記述を促す。
	4 実践しよう ロールプレイング1 「ハンバーガーを買う」 「DVDを借りる」の場面を想定し会話を行う。 ロールプレイング2 「母親と中学生」 「父親と中学生」 ワークシートの小遣いにかかわるやりとりを想定し会話を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・2人組になり、手引のシナリオP37を参考にロールプレイングをさせる。演じる役をお互いに交替してやるよう促す。 ・ロールプレイングを演じる目的と意義を補足する。 	手引シナリオ(P37) 評価 【知識・理解】 契約と約束の違いを理解することができる。
	5 まとめ 生活に生かそう 契約と約束の違いを考える。契約するときの注意を考える。 本時の自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約と約束の違いをまとめることができる。 	具体規準 A 契約は、法律上の責任が生じることにふれ記述している。 B 契約は合意によって成立することを書いている。 約束との違いを書いている。 方法支援 ワークシート5の記述 手引P1のポイント、P4を見るように促す。

第2回

- 1 題材名 「商品を選ぼう」(手引P5-12)
- 2 本時の目標 商品を選ぶ条件を理解することができる。
自分の価値判断に基づき、商品を選択・購入することができる。

意思決定を取り入れた学習過程		学習活動 実践的・体験的な学習活動	指導上の留意点	教材・教具・手引(P) 評価(具体的評価規準・方法等)	
導入	1 見つけよう	商品にはどんなものがあるかあげてみる。 商品の選び方を考える。 学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・商品の例を引き出しながら、イメージさせる。形のない商品についてもふれる。 ・商品を例にとり、商品を選択する際に優先したいことを考えさせる。 	手引ワークシート(P5-6)	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習課題2 商品を選ぶ条件は何ですか </div>			
展開	2 追究しよう	(1) 物資・サービスの意味について知る。 (2) 観察 班ごとに商品を選び、どのようなことが書かれているか、表示によって得られる情報を調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・手引資料(P7)を見ながら確認させる。 ・実際に商品を手にとらせ、表示やマークに注意してメモをとるよう促す。 ・手引資料P7の商品表示と、P11のマークを説明する。 	手引資料(P7) 商品(食料品・洗剤など、持参させてもよい) 手引資料(P8, P11) マークの表示見本	
		(3) 情報を収集する必要性について考える。 「商品を選ぶときの条件は何ですか」の意思決定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・手引資料(P8)を見ながらまとめさせる。 ・シャンプー、美容院、菓子を選ぶときの条件を考え、3つずつ自分の考えを書かせる。 ・「1見つけよう」の考えと変化があるか着目させる。 	評価 【知識・理解】 商品を選ぶ条件を理解することができる。	
	3 考えをまとめよう	4 実践しよう	KJ法 個人の意見をふせんに書き、班ごとに、商品を選ぶ条件の優先順位をまとめる。 【手順】 ふせんに意見を書く。 模造紙に同じ意見を寄せながら貼っていく。 共通する意見をまとめ見出しをつける。 見出しごとの関連性を明らかにする。 班ごとに発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1人に3枚ずつふせんを配付し、KJ法によって班ごとの選択の条件を、自分たちの手でまとめさせる。 ・1班に1つの商品とする。 	評価 【生活の技能】 自分の価値判断に基づき、商品を選択・購入することができる。
			ふせん、模造紙(1/2枚)、マジックペン	評価 【生活の技能】 自分の価値判断に基づき、商品の良さや、自分の生活との関連から、選択基準を述べて商品を選択している。	
まとめ	5 生活に生かそう	商品を選択するとき、気をつけたいことをまとめる。 本時の自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の意見を参考に考えが書けるよう支援する。 ・班長に発表させる。模造紙を持つ係も設定する。 	評価 【生活の技能】 自分の価値判断に基づき、商品の選択理由を述べて、選択している。	
				方法 実技テスト 支援 手引p10を見て、広く条件を考えさせる。	

第3回

- 1 題材名 「商品を選ぼう」(手引P13-16)
- 2 本時の目標 いろいろな観点から商品を選択することができる。
衣類のリサイクルに関心をもつことができる。

意思決定を取り入れた学習過程	学習活動 実践的・体験的な学習活動	指導上の留意点	教材・教具・手引(P) 評価(具体的評価規準・方法等)
導入 5	1 見つけよう 3つのジーパンを見て、一つを選択する。 A: 低価格のもの B: 価格は中程度 C: ブランドのもの 商品の価格の決め方について考える。 学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> 商品に値段の表示を付け、考える視点を与える。 実物にさわったり、観察してよい。 	3社のジーパン(実物) 価格の表示(紙板書) 手引ワークシート (P13-14)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習課題3 あなたならどのジーパンを選びますか </div>		<ul style="list-style-type: none"> 本時の評価にふれる
展開 40	2 追究しよう (1) 販売価格がどのように決まるのか考える。 (2) 資料P15を参考に自分のファッションへのこだわりを振り返る。 (3) 資料P P16を読んで、着用されなくなった衣類のリサイクルについて自分の考えを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> なぜ安い商品が生産・販売できるのか、百円均一などの例から考えさせる。 自分のファッションのこだわりを発表させる 今まで、着用なくなった衣類をどうしていたか想起させる。 	手引資料(P15) 手引資料(P16) 評価 【生活の技能】 いろいろな観点から、商品を選択することができる。
	3 考えをまとめよう 「あなたならどのジーパンを選びますか」の意思決定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 導入の選択との違いを見つめさせ、理由付けをしっかりとらせる。場面設定による複数選択も促す。 	具体規準 A 選択理由の記述が、1見つけめようの段階より、詳しく、ふえている。環境に配慮した購入について記述している。 B 複数の理由から商品を選択している。価格以外の理由から、商品選択の記述をしている。
	4 実践しよう 着用しなくなったジーパンを活用する方法を考えて、絵で表す。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の評価とかがわり、3つ以上描くよう促す。 実物見本を提示し、イメージさせる。 発表・意見交流の時間をとるとよい。 	方法 ワークシート3, 5の記述 支援 手引P15-16を見るよう促す。 実物見本(ジーパンのリフォーム作品)
	5 生活に生かそう 商品やサービスを選択するとき、気をつけたいことをまとめる。 本時の自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 前時と同じまとめであることを注意し、今日の授業のねらいにふれながらまとめさせる。 	評価 【関心・意欲・態度】 衣類のリサイクルに関心をもつことができる。
まとめ 5			具体規準 A ジーパンの活用方法を、3つ以上描いている。 B ジーパンの活用方法を1つ描いている。 方法 ワークシート4記入状況 支援 実物見本を参考にさせる。

第4回

- 1 題材名 「販売方法を選択しよう」(手引P17-20)
- 2 本時の目標 商品に応じて販売方法や支払い方法を選択することができる。
通信販売を利用するときの注意点を理解することができる。

意思決定を取り入れた学習過程		学習活動 実践的・体験的な学習活動	指導上の留意点	教材・教具・手引(P) 評価(具体的評価規準・方法等)
導入	1 見つけよう	発表からクラスメートの通信販売の利用状況を知る。 利用上の課題や、これから利用するにあたり知りたいことを発表する。 学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査をもとに指名する ・困っていることや利用する上での不安などがあれば引き出す。 	手引ワークシート(P17-18)
	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習課題4 あなたはどの販売方法を利用しますか </div>		
展開	2 追究しよう	いろいろな販売方法の特徴を知る。 支払い方法について知る。 通信販売を利用するときの条件を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な商店の例から考えさせる。 ・カードを見せながら、何払いが考えさせる。 ・カタログやチラシを例にとり利用するときの注意点を確認する。 	手引資料(P15) カード 手引資料(P19) カatalog, 広告 評価 【生活の技能】 商品に応じて販売方法や支払い方法を選択することができる。
	3 考えをまとめよう	「あなたはどの販売方法や支払い方法を利用しますか」の意思決定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・商品や購入する場面によって異なってくることを意識させる。場面設定による複数回答も促す。 	具体規準 A 商品や購入の状況に応じて販売方法や支払い方法を選択し、それぞれの商品について、理由を記述している。 B 商品に応じて、販売方法や支払い方法を選択し、理由を記述している。
	4 実践しよう	3について、意見交流し、自分の決定について振り返る。 通信販売で購入するときの注意を再度確認する。 広告から、ジャドママークを探す。	<ul style="list-style-type: none"> ・記入状況を見て指名する。 ・通信販売を利用する生徒の意見を引き出す。 ・手引資料(P19-20)を説明し、通信販売を利用するときの注意点を補足する。 ・通信販売にはクーリング・オフ制度は適用にならないので、返品の有無や、交換の記述を確認させる。 	方法支援 ワークシート3の記述 店舗販売、即時払い以外の利用を説明する。 手引資料(P19-20) 広告 評価 【知識・理解】 通信販売を利用するときの注意点を理解することができる。
まとめ	5 生活に生かそう	通信販売を利用するときに気をつけたいことをまとめる。 本時の自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の評価とのかかわりから、3つ以上書くよう促す。 	具体規準 A 通信販売を利用するときに、事前に確認することを、教師が期待する3つ以上の記述がある。 B 通信販売を利用するときに、事前に確認することを、教師が期待する1~2個の記述がある。 方法支援 ワークシート5の記入状況 手引資料P19を確認させる。

第5回

1 題材名 「消費トラブルの対処方法を考えよう」(手引 p21-26)

2 本時の目標 悪質商法などのトラブルに対して、対処の方法を理解することができる。

意思決定を取り入れた学習過程	学習活動 実践的・体験的な学習活動	指導上の留意点	教材・教具・手引(P) 評価(具体的評価規準・方法等)
導入 5	消費トラブルの寸劇を見て感想を發表し合う。消費トラブルにあったときどう対処すればよいか考えさせる。学習課題の設定	・あらかじめ、役者を選出し、シナリオを渡しておく。教師が販売員を演じる。	手引ワークシート(P21-22) 解説編シナリオ(P28)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習課題5 消費トラブルにあったとき、あなたならどう対処しますか </div>		・本時の評価にふれる
展開 40	いろいろな悪質商法の例を知る。 消費者保護と、消費者の5つの権利と責任についてを知る。 クーリング・オフ制度の条件と方法について知る。 相談機関を知る。	・手引資料P23, 38-39の事例や最近話題になった事例を紹介しながら、どういう商法があるか引き出す。 ・「消費者保護」、「消費者を保護するための基本的法律」、「5つの権利と責任」について手引資料P25-26を参考に説明する。 ・いったん契約したものでも条件が合えば解約できることを補足する。 ・トラブルにあったときどこに相談するといいいのかを手引資料P26で具体的に知らせる。	手引資料(P23, 38-39) 手引資料(P25-26) 手引資料(P24,26) 手引資料(P26)
	「消費トラブルにあったとき、あなたならどう対処しますか」の意思決定を行う。	・「断る」「無視する」だけでなく、具体的な言動で意思決定させる。	評価 【知識・理解】 悪質商法などのトラブルに対して、対処の方法を理解することができる。
	ロールプレイングシナリオ集を参考に、ロールプレイングを行う。 手引資料P26の「契約解除通知」を書く。	・手引シナリオP38-39を見ながら、2人組で役割分担し、ロールプレイングを行わせる。 ・商品や値段を自分で決定させ記入させる。	具体規準 A 悪質商法の対処方法を、具体的な言動で記述している。クーリング・オフについてふれ、対処法を記述している。相談機関を具体的に書いている。 B 悪質商法の対処法を書くことができる。
			方法 ワークシート3, 5の記述
まとめ 5	消費トラブルにあわないようにするために気をつけることをまとめる。 本時の自己評価を行う	・消費トラブルにあったときの対応同様、トラブルを未然に防ぐことも重要であることを理解させる。	支援 手引p23の解決方法と対策を確認するよう促す。 手引シナリオ(P38-39)

第6回

- 1 題材名 「自分の生活の環境への影響を考えよう」(手引P27-32)
- 2 本時の目標 自分の生活を振り返り，環境に与える影響に配慮して行動を工夫できる。
ごみの分別をすることができる。

意思決定を取り入れた学習過程		学習活動 実践的・体験的な学習活動	指導上の留意点	教材・教具・手引(P) 評価(具体的評価規準・方法等)
導入	1 見つけよう	手作り弁当と，購入した昼食とを比較し特徴を考えさせる。 学習課題の設定	・給食のない日の昼食の状況から，課題設定をする。	手引ワークシート (P27-28)
	5	学習課題6 3R推進のために自分ができることは何ですか		
展開	2 追究しよう	調査 班ごとに3つの商品を容器から出し，容器のかさや重さを調べる。 花巻市のごみの現状を知る。 容器包装リサイクル法について知り，容器もただではないことを理解する。 花巻市のごみの分別方法を知る。	・購入した弁当や，菓子，飲料を中身と容器に分け，かさと重さを調べる。容器が軽いこと，がさばることを実感させる。 ・手引資料P29を見て，花巻市のごみが年々ふえていることを理解させる ・容器の値段を予想させ，商品の値段に含まれていることを知らせる ・手引資料P31を参考に，ごみの分別方法を理解させる	手引資料(P29) 手引資料(P30) 分別ごみの実物 保存版ごみ分別大辞典 評価 【工夫・創造】 自分の生活を振り返り，環境に与える影響に配慮して行動を工夫できる。
	3 考えをまとめよう	「3R推進のために自分ができることは何ですか」の意思決定を行う。	・消費生活の環境への影響を考えさせ，自分の生活を振り返らせる。そして自分が今できること，注意することを意識させる。	具体規準 A 自分の生活とのかかわりから，環境に配慮した行動を，具体的に記述している。 B 環境に配慮した行動を自分を基準に書くことができる。
	4 実践しよう	シミュレーション 班ごとにごみの分別を擬似体験する。	・班に渡されたごみを，花巻市の分別方法に従って分別させる。調理室に表示をつけた段ボールやごみ袋を用意し，一斉に行う。	方法支援 ワークシート3の記述 学校での生活の視点を与える。
	40			ごみ(6班分) 分別用表示，段ボール，袋 評価
まとめ	5 生活に生かそう	環境に配慮した具体的な行動を書いてまとめる。 本時の自己評価を行う。	・今日からできることと，あとからでもやってみたいことを書くよう促す。	【生活の技能】 ごみの分別ができる。
	5			具体規準 A リサイクルマークを確認し，正しい方法で，自分から，分別をしている。 B 相談しながらでも，正しい方法で，分別をしている。 方法 シミュレーション場面，実技テスト 支援 手引資料P31を確認させる。

第7回(2時間計画)

- 1 題材名 「地球に優しい暮らしを考えよう」(手引P33-36)
- 2 本時の目標 地球に優しい暮らしについて考え、課題解決のための意見を工夫できる。
環境に配慮した行動がとれる。

意思決定を 取り入れた 学習過程 見よう	学 習 活 動 実践的・体験的な学習 活動	指導上の留意点	教材・教具・手引(P) 評価(具体的評価規準・ 方法等)						
入 10	手引資料P35の環境チェックを行い、地球に優しい暮らしはどうあるべきか考える。 学習課題の設定	・前時のごみの問題から環境への影響を考えさせたが、エネルギーや資源、また自分の行動パターンから環境への関心を高めさせる。	手引資料(P35) 手引ワークシート(P33-34)						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習課題7 あなたは地球に優しい暮らしはどうあるべきだと考えますか </div>									
・本時の評価にふれる。									
展 開 40	ブレンストーミング 「地球に優しい暮らしのためにできること」をテーマとし、班ごとに意見をまとめて発表する。 【手順】 自分の意見を紙に書く 班長から時計回りに、自分の意見を言いながら模造紙に紙を置く 近い意見同士にタイトルを付けたり、線で結んだりして考えを整理する 班ごとに発表する	・KJ法の経験をもとに、活発な話し合いになるよう励ます。 ・意見に対して批判しないこと、途中で思いついたものをどんどん足していいことを補足する。 ・発表時間は1分間。班長が行う。	ふせん、模造紙(1/2), マジックペン 評価 【工夫・創造】 地球に優しい暮らしについて考え、課題解決のための意見を工夫している。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">具体規準</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">A</td> <td style="font-size: small;">いろいろな角度から環境について考え、具体的な行動を書いている。</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="font-size: small;">環境に対して配慮した意見を書いている。</td> </tr> </table> 方法支援 ふせんの記述内容 具体的な行動で記述するよう促す。 手引資料(P36) 班討議用紙、学級討議用紙 環境宣言記入用紙	具体規準	A	いろいろな角度から環境について考え、具体的な行動を書いている。		B	環境に対して配慮した意見を書いている。
具体規準	A	いろいろな角度から環境について考え、具体的な行動を書いている。							
	B	環境に対して配慮した意見を書いている。							
3 考えを まとめ よう	「地球に優しい暮らしはどうあるべきか」の意思決定を行う。	・班討議を経て、考えが深まったり広まったりした点を生かして、記入するよう説明する。							
展 開 40	ディスカッション 「2年2組環境宣言」を作る。 【手順】 開会 議題確認 趣旨説明 手順確認 班討議 班ごと意見発表 まとめ(再討議) 決定承認 活用法 評価 閉会	・今まで学習してきたことを生かして、学級から全校、家庭、地域へ発信できる環境保全活動の意義を伝える。 ・環境宣言の様式を確認する。 ・学級討議のルールを確認しながら進めさせる。 ・議長指導を事前に行っておく。	評価 【関心・意欲・態度】 環境に配慮した行動がとれる。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">具体規準</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">A</td> <td style="font-size: small;">自分の配慮に留まらず、他への声かけや、どんな状況でも配慮する行動を選ぶ。 (1)ウかエ (2)ウかエ (3)ウかエ</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="font-size: small;">自分が自然体のできる範囲の行動を選ぶ。 (1)ア (2)イ (3)イカウ</td> </tr> </table>	具体規準	A	自分の配慮に留まらず、他への声かけや、どんな状況でも配慮する行動を選ぶ。 (1)ウかエ (2)ウかエ (3)ウかエ		B	自分が自然体のできる範囲の行動を選ぶ。 (1)ア (2)イ (3)イカウ
具体規準	A	自分の配慮に留まらず、他への声かけや、どんな状況でも配慮する行動を選ぶ。 (1)ウかエ (2)ウかエ (3)ウかエ							
	B	自分が自然体のできる範囲の行動を選ぶ。 (1)ア (2)イ (3)イカウ							
ま と め 10	場面設定による行動評価を行う。 本時の自己評価を行う。	・価値観の押しつけにならないよう考えさせる。 ・環境宣言の価値を説明し、学級としてのこれからの成長を願っていることを伝える。	方法支援 ワークシート5の選択状況 毎日の生活で環境に対する意識をもって生活するよう励ます。						